

令和 7 (2025) 年度
公立大学法人公立小松大学
中期計画進捗状況報告書

令和 8 (2026) 年 6 月
公立大学法人公立小松大学

令和 7（2025）年度 中期計画進捗状況報告（全体概要）

第 2 期中期計画の 2 年目である令和 7（2025）年度は、これまで構築した体制を基盤に、6 年後の中期計画の達成に向けて着実に取り組みを進め、教育研究の質の向上、地域連携、業務改善等について、さらなる充実・強化を図った。全体として、中期計画に基づき様々な施策を展開し、評価指標においても目標値を上回る項目も多かったことから、大変順調に進んでおり、特筆すべき状況にあると言える。令和 7（2025）年度の主な取り組みは以下のとおり。

教育

- ・生産システム科学部では、令和 8（2026）年度学校推薦型選抜（地域推薦）において、石川県内枠を北陸三県枠に拡大するとともに、女子枠を新設し、学生確保の強化を図った。
- ・看護学科の「外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜」の導入と国際文化交流学科のコース制度（国際観光・地域創生コース／グローバルスタディーズコース）の廃止に伴い、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）等を改正した。
- ・国際文化交流学科は、グローバル文化学専攻への内部進学増加に繋げるため、専攻と連結する早期卒業制度を制定した。また、全学で長期履修制度を制定した。
- ・大学院生の外国語による学会発表奨学金制度の導入により、大学院生の外国語による論文・学会発表件数の増加に繋がった。
- ・18 歳人口の減少に伴う入学者の確保や多様なルーツの学生確保のための施策として、外国人留学生特別選抜（令和 9（2027）年度入試）、総合型選抜（令和 10（2028）年度入試）の導入の検討を開始した。また、高校生等の受験生を対象とした新大学 PR 冊子おはこにあふれた公立小松大学や平日放課後☆ふらっとキャンパス見学会を新たに企画・実施した。
- ・志願者数は、前年度より 251 人増加し、志願倍率は 6.07 倍と、目標値を大きく上回った。大学院においても定員充足率は 128% となり、学部・大学院とも安定した学生確保を実現した。
- ・大学基金を活用し、能登半島地震・能登豪雨に係る義援金を対象学生に支給した。
- ・学生支援方針（バックアップポリシー）の策定、教職員向け「学生支援の手引き」の発行を行い、教職員の理解と学生支援の実践の促進を図った。
- ・附属図書館では、伊藤文庫の整備、県立図書館との遠隔地サービスの開始、公立小松大学学術情報リポジトリの運用開始等、学術図書の充実と利便性の向上を図った。
- ・各学科・専攻とキャリアサポートセンターが連携し5 年連続就職内定率 100%を達成した。

研究

- ・特色ある研究や文理融合型研究を助成し奨励することを目的に、重点研究つよみ及び研究発展・向上費の学内募集を行い、それぞれ 1 件、4 件を採択した。共同・受託研究は目標値の 2 倍以上となる 24 件となった。この内南加賀地域の企業・団体との研究は 2 件となった。
- ・公立小松大学協力会との共催による若手教員研究成果報告会（Salon de K Extended）を 2 度開催し、産官学による研究マッチングの可能性を広げた。
- ・金沢医科大学と大学施設・設備の利用に関する協定を締結した。
- ・学会報告件数は 252 件（うち国際学会 77 件）、論文数（査読付）91 編（うち外国語 71 編）、著書発表数 8 編となり、いずれも目標値を大きく上回った。

国際

- ・グリフィス・カレッジ（アイルランド）、ホンジュラス国立自治大学の 2 大学と新たに大学間交流協定を締結した。さらに、国立台南大学行政管理学科（台湾）と国際文化交流学部の間で部局間交流協定を締結した。また、グリフィス・カレッジ英語研修やアンコール世界遺産スタディビジットプログラムなどの新規プログラムを含め、海外語学研修や異文化体験実習を計 14 件実施した。留学生受入人数は 24 人、留学生派遣人数は 86 人となり、目標値を上回った。
- ・認定留学制度を新たに整備するとともに、認定留学期間中の本学授業料相当額を支給する認

定留学奨学金制度を新設し、学生の海外留学の促進を図った。

- ・日本学生支援機構留学支援奨学金に 2 件追加採択となり、渡航費支援の充実につながった。
- ・国際交流センター初の市民向けセミナー「地域社会の国際化」を開催し、110 人が参加した。

地域貢献

- ・公立小松大学協力会において、若手教員研究成果報告会や特別セミナー、業界研究会の出展支援等を実施し、公立小松大学と産業界との各種の交流を推進した。また、北陸銀行と連携協定を締結し、北陸銀行国際部上海駐在員事務所内に大学オフィスを開設した。
- ・地域に開かれた大学として新たに小松市と共催し「公立小松大学市民公開講座～Open UniverCity～」を開講し、市民ら延べ約 1000 人が参加した。また、学生のサークル活動やボランティア活動等を広く展開し、延べ 336 人が地域行事や市内外のボランティア活動に参加した。
- ・北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出プラットフォーム「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）のスタートアップ・エコシステム形成支援に共同機関として参画した」。
- ・次世代考古学研究センターが空間再現ディスプレイを企業と共同で制作し、大阪・関西万博及び学内 3 キャンパスの附属図書館で展示・公開した。

業務運営

- ・学長の任期満了に伴い、学長選考を実施し、学長候補適任者の所信を聴く会、学内意向調査及び個別面談等を経て、学長選考会議において学長候補者を決定した。
- ・学生及び教職員がそれぞれの多様な能力を最大限発揮できるよう、ヒューマンリソースコーディネーション機構を新設し、部局横断的な支援・連携体制を構築した。
- ・教職員の資質能力の向上のため、大学主催研修会を 10 回（全学 FD・SD 研修 1 回、FD 研修 5 回、その他 4 回）実施し、276 人が受講した。また、学生・相談員・教職員ごとにハラスメント防止に関する研修会を実施し、大学全体として意識の徹底を図った。
- ・令和 8（2026）年 1 月から文書管理システム（電子決裁）を導入した。

財務

- ・科学研究費は、若手研究 6 人、基盤研究(B) 2 人、基盤研究(C) 5 人など、合計 15 人が新規採択されたほか、各種財団等からその他外部資金を獲得した。
- ・令和 9（2027）年 4 月供用開始を目指し、末広キャンパスに研究実験棟 SOUTH 新設の基本設計・実施設計、地質調査を実施。令和 8（2026）年度当初予算に工事費等 3 億 1 千万円の予算を計上した。

自己点検評価・情報

- ・学校教育法第 109 条に基づく自己点検及び評価を、「評価室」及び「公立小松大学自己点検評価・内部質保証推進会議」を中心に実施し、PDCA サイクルを機能させることで、内部質保証の一層の改善・向上を図った。
- ・中央第 2 キャンパスの開設にあわせ、チラシ、HP、大学広報誌、大学紹介動画等で取り上げ、幅広く周知した。

その他業務運営

- ・10 月 27 日に中央第 2 キャンパス（ウレシヤス小松 4 階）を開設し、記念講演やキャンパス見学を実施した。また、必要な什器等の整備にあたっては、競争入札により価格の抑制を図りながら、新キャンパスの環境整備を着実に進めた。
- ・インフラ長寿命化計画に基づき、漏水修繕や照明器具の LED 化等、栗津及び末広キャンパスの施設修繕を実施し、改善を図った。

Ⅱ-1-(1) 教育の質保証の推進		教育
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
1 教育に関する目標		
中期目標	学修者本位の教育の実現に向け、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）の3つの方針に基づく体系的で組織的な大学教育を推進する。また、学修成果の可視化や教育研究活動における自己点検・評価を実施し、教育の質保証と改善に取り組む。	
中期計画	①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）の3つの方針に基づく体系的で組織的な大学教育を推進する。 ②3つの方針の整合性・一貫性の確保等について継続的に検証するとともに、必要に応じて見直しを行う。 ③「内部質保証の方針」並びに「アセスメントプラン」に基づき内部質保証のPDCAサイクルを展開し、恒常的な教育の質保証と改善に取り組む。 ④学生の学力、人間力など、各種指標について調査・分析及び可視化に取り組むとともに、教育研究活動における自己点検・評価を実施し、多様なエビデンスに基づく教学IR（インスティテューショナル・リサーチ）を確立する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	[全学] ・3つのポリシーに即した学修成果の検証のため、以下のとおり実施した。 *所属教員の授業評価アンケート ※学生の講義に対する満足度 - 前期：学部 4.33 大学院 4.21 - 後期：学部 4.27 大学院 4.42 ⇒結果を教育企画委員会で共有し、各所属長から教員へ必要に応じ確認・指導を行った。また、各学部内における内部質保証のPDCAを展開した。 *外部アセスメントテスト ⇒結果を教育企画委員会で共有し、各学部において学位プログラムの有効性を確認した。 *入学時・在学時・卒業時アンケート ⇒結果を教育企画委員会で共有し、各学部において学位プログラムの有効性を確認した。 *教員による自己点検・評価シート作成 ⇒所属長が各教員のシートを確認し、必要に応じ、指導した。 *各教員のシラバスの確認 ⇒所属長が、必要に応じ、教員のシラバスを確認・指導した。 *入学選抜区分に応じた学力調査 ⇒各学科の調査結果を入試部会で共有し、実績推移などにより、継続的に選抜方法の効果を定量的に検証している。 ・各種学生アンケートの回答率は以下のとおり。 *授業評価アンケート回答率 前期〔学部 54.8%、大学院 54.0%〕、後期〔学部 36.6%、大学院 46.6%〕 *入学時（1年生）の外部アセスメントテスト回答率 97.77% *在学時（3年生）の外部アセスメントテスト回答率 81.57% *入学時（1年生）アンケート回答率 96.48% *在学時（3年生）アンケート回答率 79.92% *卒業時アンケート回答率 51.2%	

	〔各学科〕 ・看護学科においては、「外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜(定員：若干名)」の導入により、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）「入学者選抜の方針」に外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜を追記した。 ・国際文化交流学科においては、コース制度（国際観光・地域創生コース／グローバルスタディーズコース）の廃止に伴い、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）「求める人材像」及び卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の内容を見直した。また、グローバル文化学専攻への内部進学増加に繋げるため、本学大学院への進学を条件とする早期卒業制度を R8（2025）年度から導入することを決定し、関係規定を制定した。
--	--

◎評価指標

1. 3つの方針の検証及び見直しの実施（第2期中期計画期間中）

考え方：各年度の3つの方針についての検証・見直しの実施状況

部局：教育企画委員会・研究科委員会・各学部（各専攻）

R6(2024)年度実績	○生産システム科学科および看護学科のアドミッション・ポリシーについて、一部表記を変更した。 ○博士前期課程のアドミッション・ポリシーについて、「入学までに身につけておいてほしいこと」の項目を1つ追加した。また、カリキュラム・ポリシーについても成績評価の方法について記載を追加した。
R7(2025)年度実績	○看護学科において、「外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜(定員若干名)」導入により、アドミッション・ポリシー「入学者選抜の方針」に外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜を追記した。 ○国際文化交流学科において、コース制度の廃止により、アドミッション・ポリシー「求める人材像」およびディプロマ・ポリシーの内容を見直した。
R6(2024)～R11（2029）年度目標値	○引き続き、3つの方針の検証及び見直しを実施し、必要に応じて改定する。 ○R8(2026)年度には博士後期課程が完成年度を迎えるため、R9(2027)年4月から順次検証・見直しを実施する。

2. 授業に対する学生の満足度 5段階評価（平均値）：4.0以上／年度

考え方：学部・大学院ごとの授業満足度の平均値（前期・後期・通年）

部局：教育企画委員会・研究科委員会・各学部（各専攻）

	R6(2024)年度実績			R7(2025)年度実績		R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
		学部	大学院	学部	大学院	学部・大学院
5段階評価 (平均値)	前期	4.33	4.25	4.33	4.21	-
	後期	4.30	4.63	4.27	4.42	-
	通年	4.315	4.44	4.31	4.27	4.0以上／年度

Ⅱ-1-(2) 学部教育		教育
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
1 教育に関する目標		
中期目標	確かな基礎知識と高度な専門能力を有し、国際的な視野をもって地域と世界で活躍する創造力ある専門職業人を育成するとともに、地域の知の拠点として学術文化の振興と情報発信を担い、地域産業の持続的発展と健康で豊かな地域社会の実現、さらには我が国及びグローバル社会に顕在する課題の解決に寄与する。 【生産システム科学部 生産システム科学科】 地域社会の様々なニーズに応えながら、循環型社会実現のための生産システム構築を目指す技術者や、関連分野で世界をリードする研究開発を担える人材を育成する。 【保健医療学部 看護学科】 病を抱える人や老いを生きる人の心身の痛みに共感できるしなやかで繊細な感性と、人としての深さを併せもち、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人を育成する。 【保健医療学部 臨床工学科】 高度化する医療技術と多様な医療環境の中でチーム医療の一員として、より安全で確かな医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士および臨床工学教育・研究者を育成する。 【国際文化交流学部 国際文化交流学科】 人文・社会科学系の総合学部として、外国語力をベースとした国際社会に対する知識と国際感覚を備え、強い人間力と豊かな知性・感性をもって地域社会の創生と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する。	
中期計画	【全学共通】 ①学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。” ②学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力を育成するため、専門領域を超えた分野横断的な教育と、大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を深める教育を行う。 ③確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行う。 ④ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる専門能力を強化するため、各学部・学科に対応した地域あるいは世界の課題に取り組む Project-based Learning（課題解決型学習）を行う。 【生産システム科学部 生産システム科学科】 地域産業の基盤となる専門領域を広く教育し、かつ生産システムについてのサステナブルな観点を醸成するとともに、日本と世界に広く通用しうる問題解決能力の育成に取り組む。 【保健医療学部 看護学科】 人の心身の痛みに共感する感性や人としての深さを育成し、幅広い領域で看護ケアを提供できる能力を高めるため、教育課程や教育方法の課題について検討を行う。科目間のつながりを明確にして、カリキュラムおよびシラバスに反映し、カリキュラムの体系化を図る。 【保健医療学部 臨床工学科】 高度化・複雑化する医療機器に対応するための知識と技術の修得に向けた講義と実習を行う。また、臨床工学技士の業務範囲追加に伴い、2023年4月からの新カリキュラムに基づく学士課程教育を滞りなく行う。さらに、小松市またはその近隣の医療施設で活躍する医療者から、地域における保健医療福祉について学ぶ機会を提供する。 【国際文化交流学部 国際文化交流学科】 英語や中国語、スペイン語など多様な外国語の能力を向上させ、異文化理解を深めるとともに、地域の課題を認識するために、必要に応じて教育課程や教育方法の改善を図る。	
	〔全学〕 ・地域や世界の課題に取り組む Project-based Learning（課題解決型学習）を、専門基礎科目・専門科目、国際文化交流学科の地域実習やシリコンバレー研修などの計 50 件を実施した。	

R7 (2025) 年度の主な実績点検評価	・ R 7 (2025) 年度の TOEIC®の受験者数は計 268 人/年度となり、目標値を上回った。なお、受験料は大学が全学負担している。受験者数・平均点は以下のとおり。 9 月実施分：国際文化交流学科 2 年生以上を対象、受験者数は 135 人、平均点は 505 点 （昨年度：受験者 83 人、平均点 527 点） 2 月実施分：全学科を対象（国際文化交流学部 2 ～ 4 年生を除く）、受験者数は 133 人、平均点は 470 点 （昨年度：受験者 161 人、平均点 465 点） ・ 国家試験の合格率は、看護師 100%、保健師 94.4%、臨床工学技士 76.5%となった。各学科の支援対策は以下のとおり。 看護学科：国家試験サポート委員会及び保健師養成課程教員が中心となり、模擬試験、補講などの対策を進めた。 臨床工学科：講義内容の再編、国家試験対策の拡充や補習室の設定などを進めた。なお、昨年度から約 20%減少したため、新たな対策の検討を進める。 [各学科] ・ 生産システム科学科においては、少子化の進行などの社会情勢の変化や加速する技術革新に対応するため、新たなカリキュラムの検討を開始した。 ・ 看護学科においては、学科内の FD 活動ワーキンググループにより、外国にルーツを持つ学生への対応やヒューマンリソースコーディネーション機構（HRC 機構）と連携した FD を実施し、教育の質向上を図った。 ・ 臨床工学科においては、臨床系講義実習検討委員会及び工学系講義実習検討委員会により、実習と座学の内容を再構築した。双方を有機的に連動させることで、教育内容の体系的性と学修到達目標の整合性の確保を図った。また、4 年次の病院実習を前期に集約することで、卒業研究の時間を後期に十分確保できる体制に変更するとともに、卒業研究発表会を後ろ倒しすることで、卒業研究内容の大幅な改善につながった。 ・ 国際文化交流学科において、R 7 (2025) 年度から、授業の大半が英語で行われる「EPlus 科目」を 13 科目開設し、英語力と異文化コミュニケーション力を実践的に高める『英語プログラム』を開始した。また、CEFR B1 レベル(TOEIC®550 点以上、HSK3 級以上)に到達した学生の割合は 51.4%となり、目標値 50%を上回った。引き続き、英語プログラム（E Program）の実践により、学力及び学習習慣の強化を図る。

◎評価指標

3. 各学部・学科に対応した地域あるいは世界の課題に取り組む Project-based Learning（課題解決型学習）実施件数：10 件以上／年度

考え方：授業・ゼミにおける Project-based Learning（課題解決型学習）件数（講義・プロジェクトごと）
部局：教育企画委員会・研究科委員会・各学部（各専攻）

	R6 (2024) 年度実績	R7 (2025) 年度実績	R6 (2024)～R11（2029）年度目標値
実施件数	31 件	50 件	10 件以上／年度

- 【R7 年度実績（内訳）】
- ・ シリコンバレー研修（1 件）
 - ・ 演習 A（16 件）－語学・英語学、観光、国際社会、地域づくり、映画研究、国際政治、中国語、日本文学、地域創生・再生、第二言語習得、心理学、観光人類学、社会言語学、アイデンティティ研究、言語研究、観光 DX
 - ・ 演習 B（16 件）－演習 A の応用
 - ・ 地域実習（5 件）－観光・地域づくり、未来型図書館づくり、地域の芸術・文化支援、尾小屋鉱山資料館と周辺地域活性化、地域スポーツによる地方創生
 - ・ 学外 PBL 研修（2 件）－東南大学夏季国際文化交流プログラム、模擬国連
 - ・ 博士後期課程「国際・地域特別実習」（10 件）－生産システム科学専攻（3 件）、ヘルス5・アシステム科学専攻（3 件）、グローバル文化学専攻（4 件）



地域実習（小松市未来型図書館づくり）

4. 国家試験合格率（看護師・保健師・臨床工学技士）：95%以上／年度

考え方：看護師・保健師・臨床工学技士の合格率（合格者数／受験者数）
部局：保健医療学部

		R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11 (2029) 年度目標値
国家試験合格率	看護師	100% (全国合格率 90.1%)	100% (全国合格率 88.3%)	95%以上／年度
	保健師	100% (全国合格率 94.0%)	94.4% (全国合格率 87.1%)	
	臨床工学技士	96.8% (全国合格率 78.9%)	76.5% (全国合格率 65.7%)	



看護師の国家試験合格率が3年連続で100%

5. TOEIC®の受験者数：250人以上／年度

考え方：TOEIC®の受験者数（延べ人数）
部局：教育企画委員会・各学部（各専攻）

	R6(2024)年度 実績	R7(2025)年度 実績	R6(2024)～R11 (2029) 年 度目標値
9月（国際文化交流学科 2年生以上対象）	83人	135人	-
2月（全学科対象）	161人	133人	-
合計	244人	268人	250人以上／年度

6. 【国際文化交流学部】CEFR B1 レベル（TOEIC®550 点以上、HSK 3 級以上等）に到達した学生の割合：50%/年度

考え方：3 月末日時点での実績

部局：国際文化交流学部

○TOEIC®550 点以上、HSK3 級以上に到達した学生の割合

	R6 (2024) 年度実績			R7 (2025) 年度実績			R6 (2024) ～R11 (2029) 年度目標値
学年	到達学生数	入学者数	達成率	到達学生数	入学者数	達成率	達成率
4 年生	50 人	80 人	62.5%	48 人	80 人	60.0%	－
3 年生	46 人	80 人	57.5%	54 人	86 人	62.8%	－
2 年生	46 人	86 人	53.5%	46 人	85 人	54.1%	－
1 年生	30 人	85 人	35.3%	22 人	80 人	27.5%	－
合計	172 人	331 人	52.0%	170 人	331 人	51.4%	50%

《参考 1》TOEIC®550 点以上に到達した学生の割合

	R7 (2025) 年度		
学年	到達学生数	入学者数	達成率
4 年生	38 人	80 人	46.3%
3 年生	42 人	86 人	48.8%
2 年生	32 人	85 人	37.6%
1 年生	22 人	80 人	27.5%
合計	134 人	331 人	40.5%

《参考 2》HSK3 級以上到達した学生の割合

	R7 (2025) 年度		
学年	到達学生数	入学者数	達成率
4 年生	29 人	80 人	36.2%
3 年生	25 人	86 人	29.1%
2 年生	24 人	85 人	28.2%
合計	78 人	251 人	33.0%

※HSK の受験は 2 年次以降としている。

Ⅱ-1-(3) 大学院教育		教育
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
1 教育に関する目標		
中期目標	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展と産業の振興に寄与する。 これらの大学院の教育の目的を踏まえて学士課程と接続する3専攻を設定し、ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）で求められる高度な専門知識・技能を身につけた学生を育成するため、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）に基づき、教育課程を編成する。また、学部教育との一貫性を強化する。	
中期計画	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展と産業の振興に寄与する。 これらの大学院の教育の目的を踏まえて学士課程に接続する3専攻を設定し、ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）で求められる高度な専門知識・技能を身につけた学生を育成するため、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）に基づき、教育課程を編成する。また、学部教育との一貫性を強化する。” 【博士前期課程】 工・文・医系の知的人的資源を活かし、AI・データ科学や他者とのコミュニケーション能力を共通リテラシーとして涵養し、地域・世界の持続性に資する多様な専門知識と技能を備え、時代と社会の変化にしなやかに対応できる人材育成を図る。 【博士後期課程】 課題発見能力及び社会実装力を備えた次世代人材、地域産業の高度化と地域発イノベーション等を担う高度人材、未来を支える教育者・研究者・組織指導者、「総合知」に立脚し高度な専門能力を備えた人材を育成し、地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献をめざす。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・博士前期課程においては、専門共通科目、応用科目を実施し、共通リテラシーの修得を図った。また、専攻専門科目のほか分野横断的専攻専門科目を設け、他分野との対比や融合を促した。さらに、フィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップを実施し、修了研究へと繋げた。 ・博士後期課程においては、研究科共通科目、専攻専門科目、特別研究科目を実施し、各分野を超えた高度専門能力の育成を図った。 ・自専攻から主任指導教員1人、副指導教員1人、他専攻からのアドバイザー教員1人の3者が連携し、分野横断的な課題研究の指導・助言を行った。 ・大学院在学中の外国語の論文・学会発表件数の増加を促す仕組みとして、新規に「大学院生の外国語による学会発表奨学金制度」を導入し、5人が当該制度を活用した。この取り組みも一因となり、大学院在学中の外国語の論文・学会発表を行った学生数が昨年度の2人から5人に増加した。	

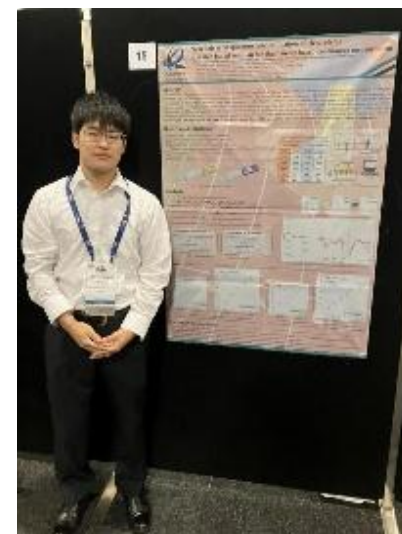
◎評価指標

8. 大学院在学中の外国語の論文・学会発表：70%以上／年度

考え方：各年度末に大学院在学中に1度でも外国語（母国語以外）の論文・学会発表を行った人数をカウント（該当者数／大学院修了者数）

部局：研究科委員会・各専攻

		R6(2024)年度実績		R7(2025)年度実績		R6(2024)～R11(2029) 年度目標値
専攻名	課程名	該当者数	大学院生数 (R7.3修了者数)	該当者数	大学院生数 (R8.3修了者数)	
生産システム科学専攻	博士前期課程	1人	10人	5人	19人	-
ヘルスケアシステム科学専攻	博士前期課程	1人	3人	0人	1人	-
グローバル文化科学専攻	博士前期課程	0人	3人	0人	2人	-
合計		2人	16人	5人	22人	-
大学院在学中の外国語の論文・学会発表割合		12.5%		22.7%		70%（修了時）



大学院生による国際会議発表

Ⅱ-1-(4) 入学者選抜		教育
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
1 教育に関する目標		
中期目標	アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）に則った入学者選抜を行い、質の高い多様な学生を確保するとともに、継続的にその検証を行い、必要に応じて入学定員や選抜制度の見直しを行う。	
中期計画	①アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）に則った入学者選抜を行い、質の高い多様な学生を確保する。特に研究科においては、社会人、外国人留学生及び他大学からの進学者の受け入れを推進する。 ②入学者選抜の結果を検証し、必要に応じて入学定員や選抜制度の改善を図る。 ③オープンキャンパス、高校訪問、説明会等の入試広報の取り組みを通じて、大学が求める人材像や大学の特色・魅力を広く社会に周知し、入学者の確保を図る。	
R7(2025)年度 主な実績 点検評価	・生産システム科学部においては、学生確保を目的に、学校推薦型選抜（県内推薦）を北陸3県まで枠を広げて、学校推薦型選抜（北陸3県推薦（一般枠・女子枠））を実施した（志願者及び受験者18人、合格者16人）。また、前年度に引き続き、令和8(2026)年度一般選抜（前期日程）では試験会場を名古屋にも設置し、名古屋会場での受験者数は前年度より4人増加した。なお、令和9(2027)年度一般選抜（前期日程）では、国際文化交流学部においても試験会場として新たに名古屋会場を追加する予定である。 ・保健医療学部看護学科においては、保健医療専門者の育成やグローバル人材輩出を目的に、小松市の地域特性を考慮した外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜を実施した。（志願者1人、受験者及び合格者1人） ・多様な背景を持つ学生への対応及び国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目的として、R9(2027)年度入学者選抜からの外国人留学生特別選抜の導入に向けた検討を開始した。 ・18歳人口の減少に伴う入学者の確保や多様なルーツの学生確保のため、R10(2028)年度入学者選抜からの総合型選抜の導入に向けた検討を開始した。 ・大学院では、定員充足率128%（入学生数32人/定員25人）、社会人・外国人留学生・他大学からの大学院進学者率37.5%（社会人7人、外国人留学生3人、他大学2人計12人/学内進学者20人）となり、いずれも目標値を上回った。 ・標準修業年限での卒業者は、学部91.1%（R7年度卒業生226人/R4年度入学者248人）、大学院96.2%（R7年度修了者25人/R5年10月+R6年4月入学者）26人）となった。ただし、海外留学など前向きな理由で在学期間が延びる学生もいる。前向きな延長以外の学生に対しては、学業成績の確認や学生生活の確認など、指導教員と学生との面談により不安解消を図るよう促した。 ・学士課程全体のR8(2026)年度志願者数は前年度より251人増加、志願倍率は6.07倍となり目標値（3.00倍）を大きく上回った。志願者増加に向けた取り組みは以下のとおり。 ＊北陸三県4会場において進路指導教諭向け大学説明会を実施。（54校63人が参加）（内訳：小松21校24人、富山11校11人、福井8校9人、金沢14校19人） ＊オープンキャンパスを実施。（高校生549人、保護者236人が参加） ＊教職員による高校訪問を実施。（北陸3県、新潟、長野、岐阜、静岡、愛知、三重のべ125校）（内訳：石川49校、福井20校、富山19校、新潟5校、静岡3校、愛知5校、三重6校、長野11校、岐阜7校） ＊業者主催の進路相談会に参加。（北陸3県、新潟、長野、愛知、静岡、大阪、東京会場合わせて20回） ＊大学PR冊子「おはこにあふれた公立小松大学」（主に北陸3県以外の受験生などに向けた内容）を新規に制作・配布。第2版も制作。 ＊高校1～2年生を対象にふらっとキャンパス見学や学生交流ができる催しとして、新規に平日放課後☆ふらっとキャンパス見学会を実施。	



新PR冊子
「おはこにあふれた公立小松大学」

	[平日放課後☆ふらっとキャンパス見学会] 日時 10月14日(火)～16日(木) いずれも16:30～18:00/参加者数 高校生21人、保護者7人 *高校教員や高校生に公立小松大学での学びや成長を感じてもらおう SCHOOL VISIT(母校訪問)を来年度実施に向けて企画。
--	---

◎評価指標

7. 社会人・外国人留学生・他大学からの大学院進学者率：20%以上／年度

考え方 当該年度の4月入学者・10月入学者を合算して算出(該当者数/入学者数)

部局：研究科委員会・各専攻

		R6(2024)年度実績		R7(2025)年度実績				R6(2024)～R11 (2029)年度目標値
専攻名	課程名	入学者数	うち社会人・ 外国人留学生・他大学	入学者数	うち社会人	うち外国人 留学生	うち他大学	-
生産システム科学専攻	博士前期課程	20人	1人	16人	0人	1人	2人	-
	博士後期課程	3人	1人	2人	1人	1人	0人	-
ヘルスケアシステム科学専攻	博士前期課程	2人	2人	8人	2人	0人	0人	-
	博士後期課程	3人	3人	2人	2人	0人	0人	-
グローバル文化科学専攻	博士前期課程	2人	2人	3人	1人	1人	0人	-
	博士後期課程	3人	3人	1人	1人	0人	0人	-
合計		33人	12人	32人	7人	3人	2人	
社会人・外国人留学生・他大学からの 大学院進学者率／年度		36.3%		37.5%				20%以上／年度

9. 学士課程全体の志願倍率：3倍以上／年度

考え方：全ての入試区分の合算（志願者数／募集定員）
部局：教育企画委員会・各学部

学科	募集定員	R6(2024)年度実績		R7(2025)年度実績		R6(2024)～R11(2029)年度目標値
		志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願倍率
生産システム科学科	80人	409人	5.11倍	559人	6.99倍	-
看護学科	50人	265人	5.30倍	285人	5.70倍	-
臨床工学科	30人	136人	4.53倍	200人	6.67倍	-
国際文化交流学科	80人	395人	4.94倍	412人	5.15倍	-
全体	240人	1205人	5.02倍	1,456人	6.07倍	3倍以上／年度



オープンキャンパス

10. 大学院の定員充足率：100%以上／年度

考え方：当該年度の4月入学者・10月入学者を合算して算出（入学者数／入学者定員）
部局：研究科委員会・各専攻

			R6(2024)年度 実績	R7(2025)年度 実績	R6(2024)～R11(2029)年度目標
専攻名	課程名	定員数	入学者数	入学者数	-
生産システム科学専攻	博士前期課程	15人	20人	16人	-
	博士後期課程	2人	3人	2人	-
ヘルスケアシステム科学専攻	博士前期課程	3人	2人	8人	-
	博士後期課程	1人	3人	2人	-
グローバル文化学専攻	博士前期課程	3人	2人	3人	-
	博士後期課程	1人	3人	1人	-
合計		25人	33人	32人	-
定員充足率		-	132%	128%	100%以上／年度

11. 標準修業年限での卒業者の比率：85%以上／年度

考え方：学部・大学院ごとに当該年度の3月卒業生・9月卒業生を合算して算出（標準修業年限で卒業した人数／当該年度入学者数）

部局：教育企画委員会・研究科委員会・各学部（各専攻）

		R6(2024)年度実績			R7(2025)年度実績			R6(2024)～R11（2029）年度目標値
	学科／専攻名	当該年度 入学者数	標準修業 年限での 卒業生	標準修業年 限での卒業 者の比率	当該年度 入学者数	標準修業 年限での 卒業生	標準修業年 限での卒業 者の比率	標準修業年限での卒業生の比率
学部	生産システム 科学科	83 人	70 人	84.3%	85 人	69 人	81.2%	-
	看護学科	52 人	51 人	98.1%	50 人	50 人	100.0%	-
	臨床工学科	33 人	31 人	93.9%	33 人	33 人	100.0%	-
	国際文化交流 学科	80 人	67 人	83.8%	80 人	74 人	92.5%	-
	計	248 人	219 人	88.3%	248 人	226 人	91.1%	85%以上／年度
大学院 （博士前 期課程）	生産システム 科学専攻	11 人	10 人	90.9%	22 人	22 人	100.0%	-
	ヘルスケアシ ステム科学専 攻	3 人	3 人	100%	1 人	1 人	100.0%	-
	グローバル文 化学専攻	2 人	2 人	100%	3 人	2 人	66.7%	-
	計	16 人	15 人	93.8%	26 人	25 人	96.2%	85%以上／年度

Ⅱ-1-(5) 学生支援				教育
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標				
1 教育に関する目標				
中期目標	教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援する。また、学生が将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図ることができるよう、1年次からのキャリア教育を実施するとともに、就職・進学等の支援体制を充実させる。			
中期計画	①教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援し、安心して学べる環境を提供するとともに、課外活動を含む学生生活の充実を図る。 ②国の修学支援新制度に基づき、授業料の減免、給付型奨学金等の運用を継続するとともに、社会情勢の変化を踏まえ、学生のニーズに則した大学独自の支援制度を実施する。 ③学生の心身の健康管理を行うとともに、相談等に適切に対応し、きめ細やかな支援を行う。 ④障がいのある学生や留学生など特別な支援が必要な学生に対する支援体制を確立し、ニーズに合わせたサポートを行う。 ⑤学生が将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図ることができるよう、1年次からのキャリア教育を実施するとともに、地域の連携・協力を得て、インターンシップや学外実習等の充実を図る。 ⑥就職や進学、起業を希望する学生に対し、相談や情報提供、各種講座等を的確に実施する。			
R7(2025)年度 の 主な実績 点検評価	[学生支援・課外活動] ・国の修学支援新制度に基づく日本学生支援機構給付奨学金・授業料減免制度について、4月に3度説明会を実施し、認定された実人数は269人となった。(前期262人・後期256人) [R7年度の対象学生人数は以下「表1」のとおり]			
	表1：R7年度の高等教育の修学支援新制度（日本学生支援機構の給付奨学金・授業料減免）対象学生数			
	学科	第Ⅰ区分、多子 (全額免除)	第Ⅱ区分 (2/3 免除)	第Ⅲ区分 (1/3 免除)
	生産システム科学科	80人	11人	8人
	看護学科	47人	10人	7人
	臨床工学科	27人	6人	6人
	国際文化交流学科	72人	10人	9人
	計	226人	37人	30人
	・公立小松大学基金を活用した学生への経済支援事業として大規模災害による家計急変学生向け義援金（対象となる災害：令和6年能登半島地震及び令和6年9月能登豪雨）制度を設け、6人の学生に返還不要の義援金10万円を支給した。[支給学生は以下「表2」のとおり]			
	表2：R7年度の大規模災害による家計急変学生向け義援金支給学生数			
学科	学科別の支給学生人数			
生産システム科学科	2人			
看護学科	1人			
国際文化交流学科	3人			
計	6人			

・学生支援部においては、日本学生支援機構奨学金不適格認定学生への学習計画書の提出要請、サークル活動の管理指導、健康診断受診のPR活動、きずな合宿・青松祭の運営協力に携わった。

・大学院生の修学支援のため、大学独自の授業料減免及び博士後期課程修学支援給付金(月 10 万円)を **63 人に減免・支給**を行った。[支給実績は以下の「表3」・「表4」のとおり]

表3：R7年度の研究科授業料減免対象学生数

専攻名	課程名	全額免除	半額免除	専攻計
生産システム科学専攻	博士前期課程	5 人	33 人	38 人
	博士後期課程	3 人	0 人	3 人
ヘルスケアシステム科学専攻	博士前期課程	0 人	9 人	9 人
	博士後期課程	0 人	4 人	4 人
グローバル文化学専攻	博士前期課程	2 人	3 人	5 人
	博士後期課程	1 人	3 人	4 人
計	博士前期課程	7 人	45 人	52 人
	博士後期課程	4 人	7 人	11 人
合計		11 人	52 人	63 人

表4：R7年度の博士後期課程修学支援給付金対象学生人数

専攻名	人数
生産システム科学専攻	3 人
ヘルスケアシステム科学専攻	0 人
グローバル文化学専攻	1 人
合 計	4 人

・R7（2025）年度より、**ヒューマンリソースコーディネーション機構の設置に伴い、障がい学生修学支援規程を改正**し、部局を超えて連携した学生支援を行う体制を整備した。また「**障がいのある学生に対する配慮の流れ**」を作成し、障がい等のある学生に対する合理的配慮の提供について体制を整備した。

・相談内容を問わず気軽に相談できる「**みんなの相談室**」（毎週火・木曜日 11：00～13：00）を開設し、相談の内容や必要に応じて各部署や関係者と連携してきめ細やかな支援を実践した。

・本学の教育理念に則り、学生一人ひとりに寄り添った支援を実現するため、学生支援の基本的な方向性を明らかにした**公立小松大学学生支援方針（バックアップポリシー）**を策定した。また、学生支援の進め方や支援の流れ等、教職員の共通理解と対応の道筋を示す「**学生支援の手引き**」を発行した。

・入学後に興味関心や適性が変わる場合も考えられることから、その進路変更を制度的に支援するため、**転学部・転学科に関する規程**を制定した。

- ・学生の懲戒処分に関し、処分の量定を明確にするため、学生懲戒規程に**懲戒処分の標準例を定めた。**
- ・学士課程においても、社会人など日常に様々な制約を抱えながら学習を希望する方の入学に対応するため、大学院長期履修制度を廃止し、新たに**学士課程を含めた長期履修制度を制定**した。
- ・課外活動を含む学生生活の充実を図るため、サークル活動への支援（31 団体）、アルバイト情報の掲示（178 件）、ランチ助成券の配布（中央キャンパス学生：月 2,000 円）、こまつ未来箱設置による学生の提案募集と回答掲示など、各種支援を行った。
- ・地域企業等の連携・協力を得て、**インターンシップや学外実習等を実施し延べ 580 人が参加**した。体験型実習を通じて学生の専門知識・能力の育成を図った。
 - *生産システム科学部 3 年次学外技術体験実習（62 人）・個人申込インターンシップ（65 人）
 - *保健医療学部看護学科 臨地実習（1 年次 52 人、2 年次 50 人、3 年次 52 人、4 年次 51 人）・個人申込インターンシップ（31 人）
 - *保健医療学部臨床工学科 臨床実習（4 年次 33 人）
 - *国際文化交流学部 地域実習（通年科目、5 件、38 人）・3 年次インターンシップ（延べ 116 人）
 - *大学院 博士後期課程国際・地域特別実習（10 人）、博士前期課程 1 年次インターンシップ（延べ 20 人）
- [国際交流センター]
 - ・交換留学や認定留学等の説明会や報告会を、下記のとおり実施した。
 - 交換留学説明会 約 25 人
 - 6/16 オースティン・ピー州立大学（米国）
 - 6/23 常州大学、東南大学（中国）、建国科技大学、国立中央大学（台湾）
 - 6/25 湖西大学校（韓国）、江南大学校（韓国）、ラーマン大学（マレーシア）
 - 認定留学説明会
 - 10/1 ワイカト大学認定留学説明会 1 人
 - 1/19 認定留学制度説明会 9 人
 - トビタテ！留学 JAPAN 募集説明会
 - 11/27 トビタテ！留学 JAPAN 募集説明会 5 人
 - 交換留学報告会
 - 6/4 オースティン・ピー州立大学（米国） 5 人
 - 6/5 国立中央大学（台湾） 5 人
 - 外務省等公的プログラム、私費留学報告会
 - 4/2 JENESYS2024 大学生訪韓団（韓国） 4 人
 - 6/3 ロイヤル・ティンブー・カレッジ（ブータン）、カナダ語学学校+ワーキングホリデー（カナダ） 7 人
 - 6/10 ラプラセブ大学語学研修（フィリピン） 5 人
 - 1/14 JENESYS2025 大学生訪韓団（韓国） 3 人
 - ・海外語学研修、異文化体験実習等の説明会や報告会を下記のとおり実施した。
 - 海外語学研修、異文化体験実習等説明会
 - 4/11 レニソン大学英語研修説明会（カナダ） 4 人
 - 4/14 アルカラ大学スペイン語研修説明会（スペイン） 1 人
 - 4/15 アンコール世界遺産スタディビジットプログラム説明会（カンボジア） 10 人
 - 4/16,18 レーゲンスブルク大学ドイツ語研修説明会（ドイツ） 2 人
 - 4/17 上海外国語大学中国語研修説明会（中国） 15 人

4/21 ワイカト大学カレッジ英語研修説明会（ニュージーランド） 16 人
 4/22 海外語学研修、異文化体験実習説明会（栗津キャンパス） 4 人
 4/23 HIS ニュージーランド支店インターンシップ説明会 2 人
 4/25 海外語学研修、異文化体験実習説明会（末広キャンパス） 2 人
 7/25 ヨーロッパ世界遺産研修説明会 8 人
 10/2 HIS バンコク支店インターンシップ説明会 0 人
 10/6 アルカラ大学スペイン語研修説明会（スペイン） 0 人
 10/7 国立中山大学中国語研修説明会（台湾） 9 人
 10/8 グリフィス・カレッジ英語研修説明会（アイルランド） 12 人
 10/9 トゥレーヌ学院フランス語研修説明会（フランス） 0 人
 10/15, 23 ラーマン大学異文化体験実習説明会（マレーシア） 2 人
 11/5 マレーシアプトラ大学英語研修説明会（マレーシア） 0 人
 11/12, 17 オースティン・ピー州立大学英语研修説明会（米国） 0 人

○海外語学研修、異文化体験実習等報告会

10/21 ワイカト大学カレッジ英語研修報告会（ニュージーランド）
 10/22 上海外国語大学中国語研修報告会（中国）
 10/28 中米マヤ文明世界遺産異文化体験実習報告会（グアテマラ、ホンジュラス）
 10/29 レニソン大学英语研修報告会（カナダ）
 10/30 東南大学サマースクール報告会（中国）
 11/11 アンコール世界遺産スタディビジットプログラム報告会（カンボジア）

・留学相談 48 件（Microsoft Forms、メール、対面相談）

・国際交流センターインスタグラムアカウントを運営し、語学研修や交換留学に関する説明会や、各種国際交流イベントの周知、交換留学生の 1 日などを紹介した。
 投稿数：169 フォロワー数：243

・学部及び大学院の留学生向けに**日本語の授業**を開講するとともに、交換留学生 6 人に対し、チューターとなる学生 6 人が生活支援を行った。

〔附属図書館〕

・附属図書館においては、利用ガイダンスの実施、シラバス図書の購入、3 館連携した企画展示、相互貸借サービス、電子ジャーナル・データベースの整備等を通じて学生の学修支援を行った。

・株式会社伊藤電機様より、学生の教養を広め豊かな人生とキャリア形成の基盤となる図書を整備する目的でのご寄付を賜り、中央第 2 キャンパス開架書庫に **伊藤文庫を整備**した。

・**石川県立図書館資料の遠隔地サービスの開始**や、次世代考古学研究センターの協力による空間再現ディスプレイの巡回展示等、学生の知的探求の幅を広げる活動を進めた。

・博士後期課程が完成年度（R8 年度）を迎えるにあたり、**オープンアクセスポリシー及び機関リポジトリ運用指針を整備、公立小松大学学術情報リポジトリの運用を開始**した。

・**R7 年度の図書の整備に係る主な実績**は以下のとおり。

*R7 年度（R8. 3. 31 現在）貸出冊数

中央図書館:1,601 冊 (学生:1,183 冊、教員:226 冊、職員:192 冊)
 栗津図書館: 713 冊 (学生: 583 冊、教員: 98 冊、職員: 32 冊)
 末広図書館:1,882 冊 (学生:1,373 冊、教員:394 冊、職員:115 冊)

※R7 年度 (R8. 3.31 現在) 資料受入数

中央図書館:図書 1,586 冊、視聴覚 2 点
 栗津図書館:図書 604 冊、視聴覚 0 点
 末広図書館:図書 806 冊、視聴覚 18 点
 電子書籍 (3 館): 6 点

※R7 年度 (R8. 3.31 現在) 所蔵資料数

中央図書館:図書 17,048 冊、逐次刊行物 1,466 冊、視聴覚 612 点
 栗津図書館:図書 36,233 冊、逐次刊行物 894 冊、視聴覚 522 点
 末広図書館:図書 15,606 冊、逐次刊行物 1,403 冊、視聴覚 416 点
 電子書籍 (3 館):192 点



伊藤文庫 (中央第 2 キャンパス)



公立小松大学 学術情報リポジトリ

〔保健管理センター〕

・保健管理センターにおいては、**学生定期健康診断、公認心理師 (臨床心理士) による学生及び職員相談、予防接種、職員健康診断、特殊健康診断、ストレスチェック、職場復帰支援、安全衛生委員会の運営、救命講習会の開催**などを実施し、心身の健康増進と安全で衛生な環境づくりに取り組んだ。

・学生相談では、前期の新規相談者が増え、のべ相談回数も増加したが、後期はのべ相談回数が減り、1 年間の相談回数は昨年度とほぼ同数だった。R7 年度から設置されたヒューマンリソースコーディネーション機構や関係部署と連携し、学生及び職員相談の対応は円滑に進めることができた。

・R7 年度の**健康管理及び安全衛生管理に係る主な実績**は以下のとおり。

※健康管理

- ・学生定期健康診断 受診者: 1,046 人/1,084 人 (受診率 96.5%)
- ・学生相談 回数: 延べ 191 回、相談内容: 主に心理的・精神的な悩み、学業や進路・就職、対人関係など
- ・予防接種

B 型肝炎予防接種 保健医療学部 1 年生全員 3 回接種済み

インフルエンザ予防接種 接種者数: 学部生・院生 608 人/1,077 人 (56.5%)、教職員 104 人/129 人 (80.6%) 全体 712 人/1,206 人 (59.0%)

- ・感染者状況把握 72 人 (学生 63 人、職員 9 人) が主にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症に感染
- ・職員健康診断 対象職員 128 人/129 人受診、未受診者 (休職中) 1 人 (受診率 99.2%)
- ・特殊健康診断 1 回目対象職員 7 人/7 人受診 (受診率 100%)、2 回目対象職員 6 人/6 人受診 (受診率 100%)
- ・ストレスチェック 回答率: 120 人/123 人 (97.6%)
- ・職場復帰支援 病休及び休職職員への対応

※安全衛生管理

- ・安全衛生委員会 12 回開催 (内 3 回書面附議)、産業医による職場巡視を 6 回実施
- ・救命講習会 9 月 9 日に末広キャンパスで開催し、職員 19 人が参加

〔キャリアサポートセンター〕

・キャリアサポートセンターでは、誰一人取り残されることのない相談体制の確立を目指し、前期には学生のニーズに応じたセミナーやガイダンスを新設するなど、センターの早期利用促進に取り組んだ。後期には未内定者へのフォローを一層強化し、また、就職活動を一人で進めることが難しい学生に対しては、**ヒューマンリソースコーディネーション機構と連携した伴走型支援**により、粘り強くサポートを継続した。

・今年度の実績により、**5年連続就職内定率100%**を達成することができた。入口から出口まで途切れることのない体系的なキャリア教育と就職支援の構築が今後の課題であるとの認識から、来年度より、キャリアデザイン・チーム論を全学部で実施する予定である。

・**学部卒業者の今年度の石川県内就職内定率が全体で6割を超え、開学以来最も高い比率**となった。来年度以降もこの傾向を維持していきたい。

・例年、臨床工学科は他学科に比べて内定確定時期が遅く、加えてキャリア選択の多様化も見られることから、**新規に臨床工学科単独の進学就職ガイダンス**を企画した。ガイダンスでは大学院進学者へのインタビューや集団面接練習を実施し、学生の就職活動への意識付けを図った。その結果、キャリアサポートセンターを利用する臨床工学科4年生が7割を超え、早期に就職内定率100%を達成することができた。今後もこの流れを定着させ、学生が早めに就職活動に取り組めるよう支援していきたい。

・**R7年度の就職・キャリア支援に係る主な実績**は以下のとおり。

＊キャリアカウンセリング

学生相談 対面・オンライン対応、カウンセラー3人、計1,714件（内 卒業生12件）、3キャンパス

＊キャリア教育

①講義 キャリアデザイン・チーム論〔対象：全学部1年生〕：全6回

②講義 地域観光ビジネス論〔対象：国際文化交流学科3年生〕：全7回

③企業見学 民間企業2社、各省庁2団体、見本市1回：全5回 参加者計59人

④1、2年生向けプレ・インターンシップガイダンス〔対象：全学部1、2年生〕 16人

＊就職支援

①就職ガイダンス〔対象：各学部3年生〕

②進学就職ガイダンス〔対象：臨床工学科4年生〕 参加者20人

③大学院1年生向け就職ガイダンス〔対象：修士1年生〕 参加者15人（生産14人、グローバル1人）

④いしかわインターンシップ&仕事研究フェス2025 往復バス利用者41人（生産12人、国際29人）

⑤インターンシップ事前研修〔対象：全学部3年生、修士1年生〕：全8回 参加者136人（生産62人、国際74人）

⑥インターンシップ事後研修（就職活動丸ごと体験実践型セミナー）〔対象：全学部3年生、修士1年生〕
参加企業11社 参加者100人（生産42人、国際58人）

⑦面接・グループディスカッション対策

・【医療機関・公務員合同】グループディスカッション対策セミナー（今年度新規）：全2回 参加者19人



プレ・インターンシップ
ガイダンス



業界別内定者・卒業生交流会

- ・2026 年卒向け面接特訓セミナー（中央キャンパス）：全 5 回 参加者 18 人
 - ・集団面接・討論練習（末広キャンパス）：全 8 回 参加者 36 人
 - ・北陸先端科学技術大学院大学との合同グループディスカッション体験講座（中央キャンパス）
参加者 14 人（生産 14 人）、北陸先端科学技術大学院大学 2 人
 - ・2027 年卒向け面接特訓セミナー（中央キャンパス）：全 10 回 参加者 37 人
 - ・2027 年卒向け面接特訓セミナー（栗津キャンパス）：全 2 回 参加者 5 人
 - ⑧SPI 試験対策講座（Zoom 同時配信・録画講義） 申込者 60 人（生産 22 人、国際 38 人）
 - ⑨業界別内定者・卒業生交流会：全 13 回 参加者 44 人
 - ⑩企業等との関係づくり
 - ・企業との面談（対面・オンライン）：200 件
 - ・2026 年卒向け求人数（キャリアタス UC）：25,565 件
 - ・インターンシップ求人数（キャリアタス UC）：14,516 件
 - ⑪就職活動用証明写真撮影会：全 3 回 参加者 67 人
 - ⑫業界研究会 参加企業 60 社（協力会特別会員 30 社）
 - 1 月 8 日 参加者 125 人（生産 42 人、臨床 1 人、国際 73 人、修士 9 人）
 - 1 月 9 日 参加者 115 人（生産 54 人、看護 2 人、臨床 1 人、国際 50 人、修士 8 人）
- *公務員試験対策講座
- ①公務員ガイダンス 参加者 29 人（生産 2 人、国際 27 人）
 - ②HRC 機構共催 ひといきカフェ〔対象：公務員志望の全学生〕 全 2 回 参加者 15 人
 - ③公務員試験対策講座フォロー講義〔対象：同講座受講者〕 全 3 回 参加者 10 人
 - ④公務員合格報告会・公務員早期卒試験説明会 参加者 24 人（生産 6 人、看護 7 人、国際 17 人）
 - ⑤公務員模試 参加者 8 人（生産 2 人、国際 6 人）



大阪税関による税関業務説明会



ひといきカフェ

◎評価指標

12. 就職希望者の就職率：95%以上／年度

考え方：学部・大学院ごとに当該年度の 3 月卒業生・9 月卒業生を合算して算出（就職者／就職希望者）

部局：各学部（研究科）・教育企画委員会・研究科委員会・キャリアサポートセンター

	R6 (2024) 年度実績	R7 (2025) 年度実績	R6 (2024)～R11 (2029) 年度目標値
学部	100%	99.5%	95%以上／年度
大学院	100%	100%	

（内訳）

- 学部 生産システム科学科 100%、看護学科 100%、臨床工学科 95.2%、国際文化交流学科 100%
- 大学院 生産システム科学専攻 100%、ヘルスケアシステム科学専攻 100%、グローバル文化学専攻 100%



公務員合格報告会

13. インターンシップ参加者数：200 人以上／年度

考え方：授業・実習などにおけるインターンシップ、個人で申し込みを行ったインターンシップに参加した人数（延べ人数）
部局：各学部（各専攻）・教育企画委員会・研究科委員会・キャリアサポートセンター

	R6(2024) 年度実績	R7(2025) 年度実績	R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
参加人数	363 人	580 人	200 人以上／年度

- （内訳）
- 生産システム科学部 3 年次学外技術体験実習（62 人）・個人申込インターンシップ（65 人）
 - 保健医療学部看護学科 臨地実習（1 年次 52 人、2 年次 50 人、3 年次 52 人、4 年次 51 人）・個人申込インターンシップ（31 人）
 - 保健医療学部臨床工学科 臨床実習（4 年次 33 人）
 - 国際文化交流学部 地域実習（通年科目、5 件、38 人）・3 年次インターンシップ（延べ 116 人）
 - 大学院 博士後期課程国際・地域特別実習（10 人）、博士前期課程 1 年次インターンシップ（延べ 20 人）

Ⅱ-2-(1) 研究の質の向上		研究
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
2 研究に関する目標		
中期目標	特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組むことで、大学の「つよみ」を強化する。また、先端的な研究を推進することにより、イノベーションを創出し、その成果を国内外に広く発信する。併せて、外部機関との共同研究・受託研究を推進し、地域が抱える課題の解決や地域産業の発展につなげる。	
中期計画	① 特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組むことで、大学の「つよみ」を強化する。 ② 先端的な研究を推進することにより、新技術を創出し、その成果を国内外に広く発信する。 ② 地域が抱える課題を発見し、その解決への道筋を明らかにする。 ④ 他大学や企業、医療機関をはじめ、外部機関との共同研究・受託研究を推進し、地域産業の発展につなげる。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・特色ある研究や文理融合型研究を助成し奨励することを目的に、重点研究つよみ及び研究発展・向上費の学内募集を行い、重点研究つよみ1件、研究発展・向上費4件を採択した。 ・若手教員が主体となり、教員の研究紹介や情報交換の場を創出する、学内研究交流会 Salon de Kを毎月実施した。また、8月27日と1月30日には、公立小松大学協力会との共催による若手教員研究成果報告会 (Salon de K Extended)を開催し、教職員や協会会員の参加を得て、産官学による研究マッチングの可能性を広げた。 ・共同研究や受託研究のきっかけづくりを目的に、5月に公立小松大学研究事業ご案内チラシを作成し、企業・地域との打ち合わせや各種イベントで配布を行った。 ・産官学連携の実績は、共同・受託研究の合計で24件となり、このうち南加賀地域の企業・団体との研究は2件となった。また、技術コンサルティング制度の利用実績は5件となった。 ・特許を5件出願し、本学へ1件の特許移転を行った。 ・生産システム科学科と臨床工学科で研究交流会を実施し、相互の研究テーマや施設・設備の紹介を行った。 ・大学間の施設・設備の相互利用を目的に、2月に金沢医科大学と「公立大学法人公立小松大学と学校法人金沢医科大学との大学施設・設備の利用に関する協定書」を締結した。 ◎重点研究つよみ R7 年度採択研究 ・採択グループ 山岡哲二 教授※研究代表者、北浦弘樹 教授、廣瀬圭 教授 ・研究課題 「医療と工学の融合による先端医療機器非臨床試験の有効性と安全性の充足化推進研究～小動物動態モニターの詳細解析～」 ・助成金額 500 万円(2 年間) ◎研究発展・向上費 R7 年度採択研究 ・生産 史 金星 教授 「機構－構造連成解析による機械部品の形状最適設計」 ・看護 高木 祐介 教授 「外出頻度が低い喘息既往歴を有する高齢者の身体的・精神的・社会的特性に関する横断的調査研究」 ・臨床 山田 昭博 准教授「呼吸性変動を考慮したフォンタン循環血行動態モデルの構築」 ・国際 木村 誠 准教授「心的外傷後ストレス障害の早期発見のための心理尺度の構築－能登半島地震を踏まえた学生支援の強化に向けて－」 ・助成金額 上限 50 万円/各学科	

◎学内研究交流会 (Salon de K) 開催実績

- ・7月31日 中井 智也 氏 - 株式会社アラヤ チーフリサーチャー
「数学的思考への計算論的発達神経科学アプローチ」(対面11人、オンライン4人)
- ・9月16日 Dr. Vinayak Shinde 氏 - 博士研究員
「Advancements in Nanomaterial Synthesis for Photocatalytic and Electrochemical Applications via Laser Ablation and Hydrothermal Methods」(対面13人、オンライン3人)
- ・10月23日 臨床 木口 崇彦 講師
「化学工学的観点を利用した高効率透析治療へのアプローチ」(対面10人、オンライン10人)
- ・11月20日 国際 黄 霄龍 准教授
「中世の地方史料から見た北越前・南加賀地域」(対面2人、オンライン6人)
- ・12月18日 看護 今方 裕子 准教授
「がん化学療法の副作用評価とケア開発」(対面10人、オンライン10人)
- ・1月14日 臨床 橋本 泰成 教授
重点研究「つよみ」研究成果報告会「歩行回復を目指すブレイン・マシン・インタフェースシステムの開発」(対面13人、オンライン17人)
- ・1月28日 看護 彦 聖美 教授
「当事者支援と研究を両立するモデルの構築を目指して」(対面6人、オンライン4人)
- ・3月12日 大上 雅史 氏 - 東京科学大学 情報理工学院 准教授
「AI が加速する創薬分子設計」(対面12人、オンライン8人)
- ・3月14日 次世代考古学研究センター 野口 淳 特任准教授・小川 雅洋 特任助教ほか
次世代考古学研究センターセミナー「次世代考古学と異分野融合研究」(対面2人、オンライン6人)
- ・3月16日 Ndembu Nicaise - Deputy Director General Regional Director and Head of Mission International Vaccine Institute Kigali, Rwanda
「Pandemic Preparedness and Vaccine Development」(対面18人、オンライン12人)

◎若手教員研究成果報告会 (Salon de K Extended) 開催実績

- ・8月27日 第2回若手教員研究成果報告会「最新の技術で心と文明を探る」(対面55人)
次世代 小川特任助教 「日本と中米をつなぐ架け橋：小松発・マヤ文明世界遺産における調査研究と国際協力プロジェクト」
生産 藤原助教 「共鳴する心、進化する知識社会：神経科学から読み解くつながりの力」
- ・1月30日 第3回若手教員研究成果報告会「ヒトがヒトを受け入れること」(対面50人)
国際 望月講師 「故郷と異郷のはざまに生きるシリア難民：隣国ヨルダンの事例から」
看護 相上助教 「統合失調症の”見えにくい症状”にどう向き合うか：認知機能改善の試み」



第3回若手教員研究成果報告会
(Salon de K Extended)

◎評価指標

18. 共同研究・受託研究数：10 件以上／年度

考え方：当該年度の共同研究・受託研究数（公立小松大学の規定により定める共同研究・受託研究）

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・研究科委員会

	R6 (2024) 年度実績	R7 (2025) 年度実績	R6 (2024)～R11（2029）年度目標値
共同研究	11 件	13 件	－
受託研究	9 件	11 件	－
合計	20 件	24 件	10 件以上／年度



公立小松大学研究事業のご案内チラシ

Ⅱ-2-(2) 研究実施体制		研究
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
2 研究に関する目標		
中期目標	新しい「知」を創造し、効果的な研究活動を遂行することができるよう、学内の研究環境を整備する。また、学内の研究成果を取りまとめ、研究 I R（インスティテューショナル・リサーチ）を推進するとともに、研究活動における不正防止の徹底を図る。	
中期計画	①新しい「知」を創造し、効果的な研究活動を遂行することができるよう、学内の研究環境を整備する。 ②学内の研究成果を紀要、年報等に取りまとめるとともに、研究実績データを踏まえ、研究 I R（インスティテューショナル・リサーチ）を推進する。 ③研究活動における不正防止に向けて、研究者に求められる倫理規範の徹底を図る。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・学会報告件数は 252 件（うち国際学会 77 件・59 人）、論文数（査読付）91 編（うち外国語 71 編）、著書発表数 8 編（7 人）、共同研究・受託研究数 24 件となった。教員 84 人の 8.3%が著書を執筆し、教員あたり 1.08 編の論文を学会や紀要に掲載（共著を含む。）して、70.2%の教員が学会で実際に発表するなど、研究成果を発表した。企業等との共同研究・受託研究は、実績 24 件の内 2 件が南加賀地域の企業が相手先であったため、技術コンサルティング制度を活用し、公立小松大学協力会会員企業・団体に周知し件数増加を図る。 ・研究倫理審査委員会（審査 54 件）および動物実験委員会（審査 4 件）において、医学系の研究・実験の申請について審査を行い、承認後登録する体制を執っている。飼養保管施設及び動物実験室については、実地調査を実施（年 1 回）し、安全を確認した。所持薬品の調査（年 1 回）を行い、有機溶剤、特定化学物質を使用している研究室・実習の作業環境測定（年 2 回）ならびに薬品を所持する教員の特殊検診を実施し、安全を確認した。また、日本学術振興会等が提供する研究倫理 e ラーニングを全教員が受講した。 ・産官学連携をめざし、研究シーズ集・研究者要覧 2025 年度版を改訂発行（1,500 部）し、関係企業・団体、イベント等で配布し、学内の研究シーズを発信した。	



研究シーズ集・研究者要覧 2025 年度



公益社団法人 日本設計工学会
武藤栄次賞優秀設計賞 受賞
(生産システム科学科 酒井 忍 教授)



第 29 回日本ウォーキング学会福井大会
日本ウォーキング学会学会長特別賞 受賞
(看護学科 高木 祐介 教授)

◎評価指標

14. 学会報告件数：100 件以上／年度

考え方：当該年度の学会報告件数

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・研究科委員会

	R6(2024)年度実績		R7(2025)年度実績		R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
	国内学会	国際学会	国内学会	国際学会	－
生産システム科学科	76 件	12 件	72 件	35 件	－
看護学科	49 件	9 件	30 件	9 件	－
臨床工学科	36 件	10 件	42 件	23 件	－
国際文化交流学科	18 件	7 件	13 件	7 件	－
サステイナブルシステム科学研究科	18 件	4 件	15 件	1 件	－
国際交流センター	1 件	0 件	1 件	0 件	－
ヒューマンリソースコーディネーション機構	－	－	0 件	0 件	－
その他	2 件	0 件	2 件	2 件	－
計	200 件	42 件	175 件	77 件	－
合計	242 件		252 件		100 件以上／年度

15. 査読付き論文数：70 編以上／年度

考え方：当該年度の査読付き論文数

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・研究科委員会

	R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
生産システム科学科	23 編	32 編	－
看護学科	18 編	17 編	－
臨床工学科	13 編	19 編	－
国際文化交流学科	1 編	15 編	－

サステイナブルシステム科学研究科	0 編	6 編	-
国際交流センター	-	0 編	-
ヒューマンリソースコーディネーション機構	-	0 編	-
その他	1 編	2 編	-
合計	56 編	91 編	70 編以上／年度

16. 査読付き外国語論文数：30 編以上／年度

考え方：当該年度の査読付き外国語論文数

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・研究科委員会

	R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11(2029)年度目標値
生産システム科学科	17 編	24 編	-
看護学科	9 編	13 編	-
臨床工学科	12 編	19 編	-
国際文化交流学科	1 編	9 編	-
サステイナブルシステム科学研究科	0 編	5 編	-
国際交流センター	-	0 編	-
ヒューマンリソースコーディネーション機構	-	0 編	-
その他	-	1 編	-
合計	39 編	71 編	30 編以上／年度

17. 著書発表数：5 編以上／年度

考え方：当該年度の査読付き著書発表数

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・研究科委員会

	R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
生産システム科学科	2 編	1 編	－
看護学科	3 編	1 編	－
臨床工学科	4 編	0 編	－
国際文化交流学科	8 編	5 編	－
サステイナブルシステム科学研究科	1 編	1 編	－
国際交流センター	－	0 編	－
ヒューマンリソースコーディネーション機構	－	0 編	－
その他	1 編	0 編	－
合計	19 編	8 編	5 編以上／年度

Ⅱ-3-(1) 海外大学等との交流		国際
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標		
3 国際交流に関する目標		
中期目標	協定締結校を拡充するとともに、学生の海外派遣や留学生の受け入れを促進し、世界で活躍できる人間性豊かな人材を育成する。また、海外大学等との学生や教職員の交流や異文化理解の機会を拡充する。	
中期計画	①言語圏にこだわらず協定締結校を拡充するとともに、海外大学等との連携強化を図る。 ②学生の海外派遣や留学生の受け入れを促進し、世界で活躍できる人間性豊かな人材を育成する。 ③海外大学等との学生や教職員の交流や異文化理解の機会を拡充する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〔国際交流センター〕 ・アイルランドのグリフィス・カレッジ（11月20日）、ホンジュラスのホンジュラス国立自治大学（2月3日）の2大学と新たに大学間交流協定を締結するとともに、台湾の国立台南大学行政管理学科（12月23日）と国際文化交流学部で部局間交流協定を締結した。今後は海外語学研修や異文化体験実習等の学生交流および共同研究等の学術交流の発展に向けて具体的な計画を検討する。 ・留学生受入人数は、短期12人、長期（6か月以上）7人、大学院留学生5人の計24人、留学生派遣人数は、短期82人、長期4人の計86人となり、いずれも目標値を上回った。留学生派遣の促進に向けて、学生が渡航先を自由に選定でき、留学期間を在学期間に算入できる認定留学制度を新たに整備するとともに、認定留学期間中の本学授業料相当額を支給する認定留学奨学金制度を新設し、の周知を進めた。その結果、長期留学を検討する学生からの相談件数の増加に繋がった。 ・グリフィス・カレッジ英語研修やアンコール世界遺産スタディビジットプログラムなど、新たな海外語学研修や異文化体験実習を実施するとともに、アメリカ、オーストラリア、フィンランドでの看護研修（外部）へ派遣することで、国際的な学びに対する全学的な関心を高めることができた。短期語学研修や異文化体験実習については、昨年度実績74人を上回る82人となった。 ・留学相談、募集説明会、帰国者による留学報告会の実施及び渡航準備・手続き、日本学生支援機構留学支援奨学金などの外部奨学金・大学独自の奨学金の案内を行った。奨学金に関しては、日本学生支援機構留学支援奨学金に2件追加採択となり、学生に対する経済的渡航支援をさらに充実させることができた。学内の奨学金としては、海外短期研修奨学金を40人、留学支援奨学金を4人に支給した。 ・海外留学健康講座（2回）、危機管理セミナー（2回）を実施し、海外渡航に係る安全・危機管理について理解を深めた。 ・小松市立高校英語ワークショップでは、国際文化交流学部の学生が高校生の英語のサポートを行うとともに、大学生活に関する質疑応答を行った。また、マレーシアのイドリス教育大学の留学生と小松市内の小学校、高校での交流に関しても、言語と文化を超えた交流が実現することで、地域教育機関の国際化に貢献した。 ・米国オースティン・ピー州立大学（大学間協定校）から同大学ソーシャルワーク学部広野達教授が6月14日～16日の日程で来学し、国際交流センターセミナーでの講演および本学学生に対する交換留学説明会にて米国留学に関する説明を行った。また、同大学からアジア研究専攻プログラム担当デイヴィッド・ランズ教授が6月25日に来学し、次年度に本学と共同で実施を予定している共修プログラムについて、本学教職員と意見交換を行った。 ・8月30日から9月6日の間、国際文化交流学部島内教授が、東南大学外国語学院日本語学科（部局間協定校）が主催する東南大学サマースクールにて、日本文化を主題として授業を行った。同大学外国語学院長の劉克華氏、日本語学科教授の鄭小翔氏と、本学国際文化交流学部との今後の発展的な学生交流や学術交流について具体的な議論を行った。 ・留学生との交流イベントとして、新春初詣ツアーとSDGs新聞バックワークショップを開催し、それぞれ6人が参加した。	

	〔国際文化交流学部〕 ・ボンド大学（オーストラリア）から学生 6 人、教員 1 人を受け入れ、国際文化交流学部学生が英語で対応し、北陸地域のツアーや 模擬国連 に参加し、交流を図った。
--	--

◎評価指標

19. 海外大学等との交流協定締結数（第 2 期中期目標期間中）：3 件

考え方：新規交流協定締結数の累計
部局：国際交流センター・各学部（各専攻）

	交流協定締結内容	交流協定締結数
R6(2024) 年度実績	○部局間交流協定締結ーガジャマダ大学（インドネシア） キリスト大学（インド） ○大学間交流協定締結ーサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学（スペイン） ワイカト大学カレッジ（ニュージーランド） レニソン大学カレッジ（カナダ） 江南大学校（韓国）	6 件
R7(2025) 年度実績	○部局間交流協定締結ー国立台南大学（台湾） ○大学間交流協定締結ーグリフィス・カレッジ（アイルランド） ーホンジュラス国立自治大学（ホンジュラス）	3 件
R6(2024)～R11(2029) 年度目標値	第 2 期中期目標期間中	3 件

20. 留学生受入人数：20 人以上／年度

考え方：短期・長期（オンライン含む）・大学院留学生含む
部局：国際交流センター・各学部（各専攻）・研究科委員会

R6(2024) 年度実績				R7(2025) 年度実績				R6(2024)～R11(2029) 年度目標値
短期	長期	大学院 留学生	合計	短期	長期	大学院 留学生	合計	合計
16 人	5 人	9 人	30 人	12 人	7 人	5 人	24 人	20 人以上／年度

※長期とは、6 カ月以上の留学。

【令和 7 年度実績（内訳）】
短期ー5/19～5/20 イドリス教育大学（マレーシア） 8 人
12/21～12/25 国立台南大学（台湾） 4 人
長期ー（前期）建国科技大学（台湾）2 人、常州大学（中国）1 人
（後期）建国科技大学（台湾）1 人※前期から継続 1 人、常州大学（中国）2 人、湖西大学校（韓国）1 人
大学院留学生ー生産システム科学専攻 3 人（中国 1 人、タイ 1 人、インド 1 人）
グローバル文化学専攻 2 人（中国 1 人、米国 1 人）



部局間交流協定の締結（台湾・国立台南大学行政管理学科）

21. 留学生派遣人数：80 人以上／年度

考え方：短期・長期（オンライン含む）

部局：国際交流センター・各学部（各専攻）

R6(2024)年度実績			R7(2025)年度実績			R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
短期	長期	合計	短期	長期	合計	合計
73 人	8 人	81 人	82 人	4 人	86 人	80 人以上／年度

【令和 7 年度実績（内訳）】

○交換留学（派遣）合計：4 人

- ・東南大学（中国） 1 人
- ・オースティン・ピー州立大学（米国） 3 人

○短期語学研修等（派遣）合計：82 人

- ・上海外国語大学中国語研修（中国） 11 人
- ・ワイカト大学カレッジ英語研修（ニュージーランド） 12 人
- ・レニソン大学カレッジ英語研修（カナダ） 3 人
- ・ボンド大学異文化体験実習（オーストラリア） 5 人
- ・東南大学サマースクール（中国） 4 人
- ・アンコール世界遺産スタディビジットプログラム（カンボジア） 5 人
- ・ラーマン大学ヤングリーダーズプログラム（マレーシア） 2 人
- ・中米マヤ文明世界遺産異文化体験実習（グアテマラ、ホンジュラス） 3 人
- ・産官学合同シリコンバレー研修（米国） 11 人
- ・オークランド大学 ELA 英語研修（ニュージーランド） 2 人
- ・グリフィス・カレッジ英語研修（アイルランド） 4 人
- ・国立中山大学中国語研修（台湾） 3 人
- ・ヨーロッパ世界遺産研修（ヨーロッパ各国） 11 人
- ・アトラス旅行社看護研修（フィンランド、オーストラリア、米国） 6 人



アンコール世界遺産スタディビジットプログラム（カンボジア）

Ⅱ-3-(2) 地域における国際貢献

国際

Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標

3 国際交流に関する目標

中期目標	「世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ」の一層の推進に資するため、地域の国際活動や国際関連課題解決に協力し、地域と世界の懸け橋としての役割を果たす。
中期計画	地域と世界の懸け橋として、「世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ」の発展に貢献するため、国際活動や国際関連課題解決への支援・協力を行う。
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〔国際交流センター〕 ・ 6月15日に公立小松大学市民公開講座 Open Univer Cityの一環として、「地域社会の国際化」をテーマに、公立小松大学副学長・理事・国際交流センター長の志村恵教授、オースティン・ピー州立大学の広野達教授、公立小松大学サステナブルシステム科学研究科グローバル文化学専攻博士前期課程2年／国際交流センター・総務課職員の上林あいの3名の講師が講演を行った。セミナーには100人を超える参加があり、本学の国際的な学びやネットワークを地域へと還元する機会となった。 ・ 小松市立高校主催の英語ワークショップ、英語の授業へ留学生や職員が参加協力し、高校生との交流を図った。 ・ 小松市国際交流協会と共催で英会話カフェを16回開催するとともに、教員や留学生による中国語カフェを13回開催し、留学生を含む学生と市民が、英語・中国語の会話練習や地域の異文化体験交流を深めた。中国語カフェは、一般市民の参加も含めてリピート受講者が多く、語学学習に加え、一般市民と留学生、本学学生、本学教員の交流の場にもなっている。 ・ 大学内及び小松市国際交流協会の日本語スピーチコンテストに交換留学生ら延べ8人が参加し、日々学び続けてきた日本語の成果を堂々と披露した。

◎評価指標なし



中国語カフェ



国際交流センターセミナー
「地域社会の国際化」



国際交流センターセミナー 全体質疑応答

Ⅲ-1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

地域貢献

Ⅲ 地域貢献に関する目標	
1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進	
中期目標	教育研究成果及び大学がもつ知的資源の社会への還元を果たし、もってまちの活力と未来を創生するため、地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築し、ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。
中期計画	①大学の知を社会へ還元し、まちの活力と未来を創生するため、地域の企業、地方公共団体、医療機関・福祉施設、教育機関等との恒常的な連携体制を構築する。 ②ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。
R7 (2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈協会の事業推進〉 ・「公立小松大学協力会」（令和6年11月設立）において、産学官金民言連携のもとに、公立小松大学と産業界との各種の交流を推進し、令和7年度は以下の事業を実施した。 ○会員数 … 162社：特別会員68社、一般会員73社、賛助会員21社（3月31日現在）。 ○会費入金… 3,829,560円 ○主な事業内容… ☆役員会、総会、特別講演会、情報交換会の開催（5月22日） 参加人数（役員会：12人、総会：81人、特別講演会：102人、情報交換会：55人） <特別講演会> テーマ：教育を支える地域連携 ▼講演①（15:35～16:15） テーマ：未来は、あそびの中に。～共遊空間からはじめる変革のレバー～ 講演者：株式会社ジャクエツ 代表取締役 徳本 達郎 氏 ▼講演②（16:15～16:40） テーマ：未来は、まなびの中に。～公立小松大学の社会人、外国人教育～ 講演者：公立小松大学 学長 山本 博 氏 ▼全体質疑応答（16:40～17:00） ファシリテーター：公立小松大学 特任教授 谷内 正立 氏 ☆第2回若手教員研究成果報告会 Salon de K Extended～café～（8月27日） 参加人数（協会員：16人、学内33人、一般：6人、計55人） <プログラム> ・開会挨拶 公立小松大学 学長 山本 博 ・講演① テーマ：日本と中米をつなぐ架け橋：小松発・マヤ文明世界遺産における調査研究と国際協力プロジェクト 講演者：公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科・次世代考古学研究センター 特任助教 小川 雅洋 氏 ・講演② テーマ：共鳴する心、進化する知識社会：神経科学から読み解くつながりの力 講演者：公立小松大学生産システム科学部 助教 藤原 正幸 氏 ・閉会挨拶 公立小松大学協力会 会長 西 正次 氏 ・司会進行 公立小松大学 学長補佐（研究担当）高木 祐介



▲公立小松大学協力会総会
▶特別講演会チラシ



☆特別会員向け第2回特別セミナーの実施（9月16日）

参加人数（特別会員15人、学内17人、計32人）

<プログラム>

一部

- ・公立小松大学末広キャンパス（A～C棟、研究実験棟）の見学

二部

- ・講演①「人工心臓研究の現在・過去・未来～小児心疾患の新たな治療を目指して～」

公立小松大学保健医療学部臨床工学科 准教授 山田 昭博 氏

- ・講演②「気軽にできるウォーキング！楽しく増やそう、貯金と貯筋！」

公立小松大学学長補佐（研究担当） 高木 祐介 氏

三部

- ・意見交換会

☆第3回若手教員研究成果報告会 Salon de K Extended～café～（1月30日）

参加人数（協会員：10人、学内29人、一般：11人、計50人）

<プログラム>

- ・開会挨拶 公立小松大学 副学長 木村 繁男

- ・講演①

テーマ：故郷と異郷のはざまに生きるシリア難民：隣国ヨルダンの事例から

講演者：公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 講師 望月 葵 氏

- ・講演②

テーマ：総合失調症の“見えにくい症状”にどう向き合うか：認知機能改善の試み

講演者：公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教 相上 律子 氏

- ・閉会挨拶 公立小松大学協定会 会長 西 正次 氏

- ・司会進行 公立小松大学 学長補佐（研究担当）高木 祐介

☆業界研究会の特別会員出展30社（1月8日～9日）

☆協定会ホームページの運営（随時）

事業案内、会員リスト、入会のご案内、お知らせNewsの更新、問い合わせフォームなど

☆印刷物の送付（随時）



第2回若手教員研究成果報告会 Salon de K Extended～café～
（小松商工会議所）



公立小松大学協定会特別セミナー
（末広キャンパス施設見学）



第3回若手教員研究成果報告会 Salon de K Extended～café～
（中央第2キャンパス）

《参考》公立小松大学協力会会員企業就職状況 ※令和8年4月1日採用

		就職者数	協力会会員 企業等への 就職者数	協力会会員 企業等への 就職割合
学部	生産システム科学科	51	17	33%
	看護学科	44	16	36%
	臨床工学科	20	2	10%
	国際文化交流学科	77	32	42%
	学部計	192	67	35%
大学院	生産システム科学専攻	19	6	32%
	ヘルスケアシステム科学専攻	0	0	0%
	グローバル文化学専攻	1	1	100%
	大学院計	20	7	35%
合計		212	74	35%



業界研究会
(公立小松大学協力会特別会員出展)

〈北陸銀行との連携協定締結〉

公立大学法人公立小松大学とほくほくフィナンシャルグループの北陸銀行は、地域活性化に向け、新規事業や人材育成など11項目からなる連携協力協定を10月30日付けで締結した。その取り組みの第一段として、北陸銀行国際部上海駐在員事務所内に大学オフィスを開設し、11月24日に、山本学長と谷内特任教授が現地を訪れた。



北陸銀行との連携協定締結式

〈産官学連携コーディネーター〉

・産官学連携コーディネーターが、それぞれの専門分野を活かした地域連携・産官学連携の推進に向けた活動を実施した。

○産官学連携コーディネーター（学内）

香川 博之教授：生産システム科学科

高木 祐介教授：看護学科

清 剛治教授：国際文化交流学科

○産官学連携コーディネーター（学外）

谷内正立特任教授：協力会、各種事業の産学連携推進等

林 潔特任教授：ものづくり人材スキルアッププログラム関連事業等

川上文清特任教授：TeSH 関連事業、研究助成等に関する産学連携推進等

〈シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催〉

地域企業・団体と本学の研究シーズを結びつけ、共同研究や地域連携の新たな可能性を創出することを目的とし、教員と企業関係者とのネットワーク構築を促進するとともに、地域課題の解決に資する産官学連携の場として開催した。学科別の研究紹介や意見交換会を通じて、地域企業・団体と本学教員との交流が図られ、研究内容の理解促進および意見交換の場となった。

☆開催概要

日時：11月8日（土）13：00～16：00

場所：公立小松大学中央キャンパス3階（301～306 講義室・学生ホール）

共催：公立小松大学協力会

＜プログラム＞

13:00～13:05 〔開会挨拶 公立小松大学 学長 山本 博〕

13:05～14:15 〔第一部：特別講演〕

・大学紹介 地域連携推進センター長 香川 博之

・特別講演「松下幸之助の実践に学ぶ 人材育成の勘所」

講師：ハリウッド大学院大学客員教授・全国 PHP 友の会顧問 大江 弘 氏

14:20～15:20 〔第二部：学科別シーズ・ニーズ発表〕

・4学科による研究紹介・ポスター展示

15:25～15:55 〔第三部：意見交換会〕

15:55～16:00 〔閉会挨拶 公立小松大学 副学長 志村 恵〕

参加者数：80名（内訳：企業26社42名、学内38名）



シーズ・ニーズマッチングシンポジウム
特別講演「松下幸之助の実践に学ぶ 人材育成の勘所」

〈産学連携クロスオーバーシステムの活用〉

・株式会社日本オープンシステムズが開発した Web サービスである産学連携クロスオーバーシステム（企業が発信した企業ニーズ（案件）を大学が閲覧・関心表明を行うことで企業のニーズと大学のシーズのマッチングを行う Web サービス）の利用を R5 年度より開始している。参加団体・登録企業数増加傾向にあり、登録企業数は 155 社、企業から発信された案件数は累計 33 件、大学等からの関心表明は 30 件に達している。本学では今年度は 1 件のマッチングが成立した。今後は利用料（年額 110,000 円）に見合う成果を検証しつつ、活用の検討を進めていく。

○産学連携クロスオーバーシステム利用実績

・利用実績：本学関心表明 9 件、面談進行 3 件、マッチング成立 2 件

・マッチング成立案件

健康を維持するための栄養に関する研修〔担当〕看護学科 坂本教授、高木教授

外国籍従業員の教育プランの作成〔担当〕国際交流センター 星准教授

〈各種産学連携イベントへの出展〉

・地域シーズとのマッチング、共同研究等への発展及び大学認知度の向上等を目指し、各種産学連携イベントへの出展を実施した。例年参加のイベントの他にも、本学及び教員の研究の PR に効果的であると考えられる産学連携イベントがあった場合には、参加を検討する。R7 年度実績は以下のとおり。

○出展の実績

①MEX 金沢

会 期：5月15日（木）-17日（土）

場 所：石川県産業展示館（3号館）

担当教員：生産システム科学科 廣瀬教授、舟瀬准教授

②e-messe Kanazawa

会 期：5月23日（金）-24日（土）

場 所：石川県産業展示館（3号館）

担当教員：生産システム科学科 坂本助教

③北陸技術交流テクノフェア（福井）

会 期：10月23日（木）-24日（金）

場 所：福井県産業会館（メイン会場）

担当教員：臨床工学科 鈴木助教

④T-messe ものづくり総合見本市（富山）

会 期：10月30日（木）-24日（金）

場 所：富山産業展示館（東館）

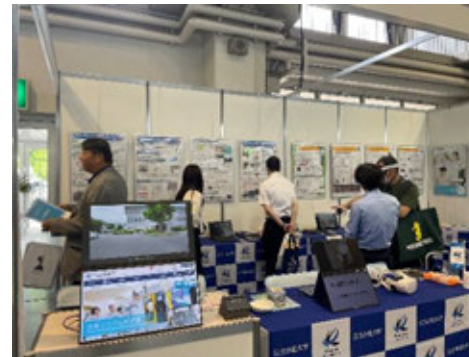
担当教員：生産システム科学科 史教授、舟瀬准教授

⑤Matching HUB Hokuriku

会 期：11月14日（金）

場 所：ANA クラウンプラザホテル金沢

担当教員：国際文化交流学科 陳准教授



MEX 金沢



e-messe Kanazawa

〈北陸スタートアップ創出プラットフォーム「Tech Startup HOKURIKU」（以下、TeSH）への参画〉、

・TeSHは、JSTが公募する「スタートアップ・エコシステム共創プログラム（以下、スタエコ共創）」に採択され、北陸先端科学技術大学院大学および金沢大学を主幹大学として、地域の産学官金が連携し、スタートアップ・エコシステムの形成を目指す取り組みである。本プログラムには北陸3県の14大学3高専（富山3、石川10、福井4／国立4、公立5、私立5、高専3）が参画しており、本学はR5年度より参画している。さらに令和7年度より、TeSHがJST「大学発新産業創出プログラム 大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援（以下START形成支援）」にも採択され、本学はその共同機関として参画している。本事業には、北陸3県の11大学3高専（富山3、石川8、福井3／国立4、公立4、私立3、高専3）が参画。

○大学参加構成（令和8年3月6日時点）

スタートアップ創出共同機関責任者：山本学長（機関統括）

プログラム共同代表者：香川地域連携推進センター長（全般統括）

その他参画者：木村副学長（機関統括補佐）

看護学科 高木教授・学長補佐（医療系担当）※

臨床工学科 山岡教授（理系・医療系担当）※

地域連携推進センター 川上特任教授（SUコーディネーター）

地域連携推進センター 林特任教授（SUコーディネーター）※

地域連携推進センター事務局 総務課担当者（事務局担当）

※はスタエコ共創のみ参加

○本学実施目標、計画

目標：

- ・起業環境の整備
- ・ギャップファンドプログラム応募に向けた支援（学内周知・申請支援）
- ・アントレプレナー教育の実施



令和7年度TeSH GAPファンドプログラムStep1採択

臨床工学科 橋本泰成 教授 山岡禎久 教授

計画：

1. 起業環境の整備
 - ・令和6年度完了した規程整備について実運用に合わせて必要に応じて見直しを実施。
 - ・市の起業支援窓口と情報共有
 - ・機材整備による講義・イベントのオンライン対応とアーカイブ化
 - ・URAの採用に向けた他大学への聞き取り調査
2. ギャップファンドプログラム応募に向けた支援（学内周知・申請支援）
 - ・R7年度応募について採択から支援
 - ・令和8年度募集「ステップ1：かがやき」への応募・採択を目指した周知、募集
3. アントレプレナー教育の実施
 - ・アントレプレナーについての講義
 - ・大学生向けの起業家講話・セミナーの開催に向けた準備

○ステップ1「かがやき」の採択

- ・令和7年度実績：応募3件中2件採択
採択者：橋本 泰成 教授、山岡 禎久 教授
- ・令和8年度応募状況：5名が申請し、1名が採択
採択者：山岡 哲二 教授



榎本特任教授によるアントレプレナー講座

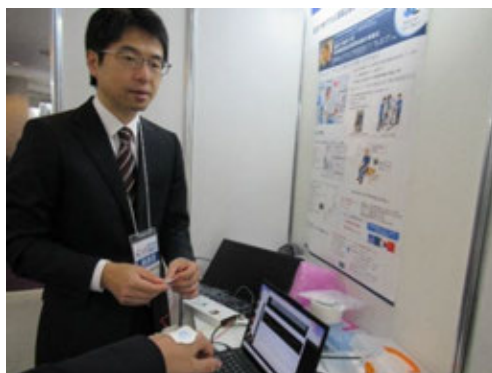
※応用研究（用途仮説設計から概念実証フェーズ手前）を支援。基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階までの引き上げを目指す。

〈次世代考古学研究センターと小松の石文化〉

小松の石文化部門では、鶴遊立地域の活性化、九谷焼を通じた地域振興、滝ヶ原地区活性化に向けた活動を、小松市の文化財施策への協力および本学学生のフィールド教育と併せて実施した。また那谷寺の文化財建造物および庭園の3D記録作業にも携わった。さらに、三次元計測技術を活用し、世界文化遺産「コパンのマヤ遺跡」を裸眼立体視可能な空間再現ディスプレイを企業と共同で制作し、大阪・関西万博および学内の3キャンパスの附属図書館で展示・公開し学内外へ発信した。加えて、中米マヤ文明世界遺産における異文化体験実習として行ったホンジュラスへの学生派遣を通じて、現地における学術・文化交流および国際的視野を育む教育機会の充実を図った。

・ホンジュラスへの学生派遣参加者 学生3名（本学3名、金沢大学4名）、引率教員3名（本学2名、金沢大学1名）、同行者2名（小松市、記者） 計12名

◎評価指標なし



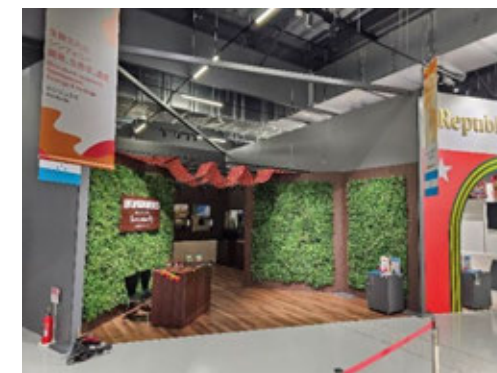
▲TeSH DEMO DAY 採択者ブース
(Matching HUB Hokuriku と同時開催)



▲Matching HUB Hokuriku ブース



38 ▲シーズニーズマッチングシンポジウム チラシ



▲大阪・関西万博 ホンジュラスの展示ブース

Ⅲ-2 地域の教育機関との連携		地域貢献															
Ⅲ 地域貢献に関する目標																	
2 地域の教育機関との連携																	
中期目標	小・中・高等学校との連携を強化するとともに、講師派遣や個別の連携事業等を展開する。また、地域の児童生徒に教員や大学が持つ知識や学ぶ楽しさを伝え、子どもたちの教育の充実につなげる。																
中期計画	①小・中・高等学校との連携を強化するとともに、講師派遣や個別の連携事業等を展開する。 ②地域の児童生徒に教員や大学が持つ知識や学ぶ楽しさを伝え、子どもたちの教育の充実につなげる。																
R7 (2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈地域への教員派遣〉 ・小松市をはじめとした自治体・各種機関等が設置する委員会の委員、外部団体が主催する各種講座・セミナー等の講師、高等学校等教育機関でのアドバイザーなど、様々な形で専門的知識を有する教員を派遣し、地域への「知」の還元を図った。 ↳大学コンソーシアム石川「2025 出張オープンキャンパス開講講座」に本学から 12 講座を開講 (生産システム科学科：5 講座、看護学科：2 講座、臨床工学科：2 講座、国際文化交流学科：3 講座) 〈小松市立高校との連携〉 ・小松市立高校において、高大連携教養講義を実施した。同校との連携を通して地域の教育の充実につなげるとともに、志願者確保に向けた大学認知度の向上や大学の PR に繋がった。 ○講義実績 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>6 月 2 日 (月)</td><td>国際：小原教授</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr> <td>7 月 14 日 (月)</td><td>生産：酒井教授</td><td>教養講座</td></tr> <tr> <td>11 月 3 日 (月)</td><td>生産：廣瀬教授</td><td>探求中間発表会講評</td></tr> <tr> <td>12 月 9 日 (火)</td><td>看護：高木教授</td><td>教養講座</td></tr> <tr> <td>12 月 16 日 (火)</td><td>国際：長辻准教授</td><td>教養講座</td></tr> </tbody> </table> 〈サイエンスヒルズとの連携〉 ・主に小・中学生へ大学が持つ知識や学ぶ楽しさを伝え、地域の教育の充実につなげることを目的に、サイエンスヒルズこまつが実施する各種イベント等への協力を行った。地域の子供やその保護者にとって大学を身近に感じられる機会となっており、できるだけ分かりやすい展示内容を心がけた。 ○常設展示 R7 年度上半期研究紹介展示 担当教員 - 生産：上田教授「物体検出 AI を用いたタイヤの傷検出」 - 山下准教授「雷雲と雷の観測」 - 看護：相上助教「統合失調症がある人を支えたい認知トレーニング研究」 - 臨床：井澤講師「画像を用いた医療支援」 - 国際：単講師「オーセンティック中国語教材の開発と実践」 R7 年度下半期研究紹介展示 担当教員 - 生産：篠原教授「二次元共振器レーザー：カオス理論を用いた共振器設計」 - 大西准教授「ヒートポンプ用の高性能フィンレス熱交換器の開発」 - 看護：矢口助教「ロボットが介護する未来、「アリ」ですか？」		6 月 2 日 (月)	国際：小原教授	オリエンテーション	7 月 14 日 (月)	生産：酒井教授	教養講座	11 月 3 日 (月)	生産：廣瀬教授	探求中間発表会講評	12 月 9 日 (火)	看護：高木教授	教養講座	12 月 16 日 (火)	国際：長辻准教授	教養講座
6 月 2 日 (月)	国際：小原教授	オリエンテーション															
7 月 14 日 (月)	生産：酒井教授	教養講座															
11 月 3 日 (月)	生産：廣瀬教授	探求中間発表会講評															
12 月 9 日 (火)	看護：高木教授	教養講座															
12 月 16 日 (火)	国際：長辻准教授	教養講座															



◀サイエンスヒルズこまつ
研究紹介展示

	臨床：中村助教「動物モデルを用いたてんかん発作解明の研究」 国際：西島講師「現代インドネシア地方社会における王権復興」 ○夏休み体験教室 7月31日（木）国際：陳准教授「多言語でつくろう！マラソン応援メッセージカード」 8月9日（土）生産：梶原教授「ChatGPTでアプリケーションづくり」 8月27日（日）臨床：山岡教授「偏光板ステンドグラスを作ってみよう！」 ○夏休み自由研究相談 7月20日（日）国際：清教授 8月9日（土）生産：鈴木教授、臨床：仲田教授 ○サイエンスフェスタ 12月14日（日）生産：上野助教（同学科学生3名）「気分はロボットエンジニア！？ ロボットアームの操作を体験してみよう！」
--	--

◎評価指標なし

Ⅲ-3 社会人教育		地域貢献
Ⅲ 地域貢献に関する目標		
3 社会人教育		
中期目標	身近な学びの拠点として、社会人のニーズに応じた社会人教育を積極的に推進し、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。	
中期計画	①ものづくり企業の人材育成や小松市と連携したこまつ市民大学の開催等、地域や社会人のニーズに応じた社会人教育を実施する。 ②オンラインを活用した授業等、学修者が受講しやすい環境づくりを推進する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈2026 公立小松大学市民公開講座～Open UniverCity～〉 ・地域に開かれた大学として令和7年度より新たに小松市と共催し「公立小松大学市民公開講座～Open UniverCity～」を開講した。大学で行われている学術の研究成果や専門的な知識を分かりやすくお伝えし、大学の知を地域に還元することで、市民の学びの機会を創出している。市民公開講座パンフレットは、広報こまつ6月号とともに小松市内41,000世帯に全戸配布した。延べ約1,000人の参加があり、アンケート結果からも非常に高い満足度が得られた。 ◎令和7年度実績	
	講座名	開催日・講師
	国際交流センターセミナー	6月15日（日） 講師 志村 恵 理事・副学長（教育） 広野 達 教授 上林 あい 国際交流センター員 コーディネーター 小原 文衛 学長補佐（教育）
	アカデミックリーダーズセミナー	8月～9月 第1回 8/2(土)石田理事長 第2回 8/9(土)山本学長 第3回 8/23(土)志村副学長 第4回 8/30(土)木村副学長 第5回 9/6(土)高木学長補佐 第6回 9/20(土)小原学長補佐
	次世代考古学研究センターセミナー	10月～11月 第1回 10/4(土)野口特任准教授 第2回 10/11(土)杓谷教授 第3回 10/25(土)朝倉教授 第4回 11/1(土)樫田誠氏（元小松市埋蔵文化財センター所長）、吉田幸央氏（錦山窯四代・九谷焼作家）、司会：中子教授
	市民公開フォーラム 2025①能登半島地震と福祉のまちづくり	9月27日（土） 講師 高山 純一 教授 山本 博 学長 石塚 裕子 東北福祉大学教授 鎌田 実 東京大学名誉教授 司会進行 中子 富貴子教授
	南加賀の歴史と文化	10月10日（金）

		山本 博 学長	
	市民公開フォーラム 2025②スポーツ医学・工学・ツーリズム	11 月 22 日 (土) 講師 酒井 忍 教授 陳 慶光 教授 高木 祐介 教授	100 人
	英語カフェ	4 月～ (通年) ※ 4 月～ 3 月で 20 回開催 (毎月 1～2 回開催) ※小松市国際交流協会共催	計 267 人 4/9(水) 10 人 4/24(木) 12 人 5/14(水) 10 人 5/29(木) 14 人 6/12(木) 15 人 6/24(火) 18 人 7/3(木) 17 人 7/15(火) 15 人 8/27(水) 11 人 9/10(水) 8 人 9/30(火) 10 人 10/8(木) 11 人 10/23(木) 14 人 11/6(木) 13 人 11/19(水) 17 人 12/17(水) 20 人 1/13(火) 12 人 1/29(木) 大雪のため中止 2/17(火) 12 人 2/26(木) 15 人 3/16(月) 13 人
	中国語カフェ	5 月～ (通年) ※ 5 月～ 1 月で 13 回開催 講師 橋本 貴子 准教授 単 艾婷 講師	合計 222 人 5/28(水) 8 人 6/4(水) 14 人 6/18(水) 13 人 7/16(水) 13 人 7/23(水) 18 人 10/1(水) 18 人 10/22(水) 20 人 11/5(水) 20 人 11/12(水) 18 人 12/3(水) 20 人 12/24(水) 25 人 1/14(水) 17 人 1/28(水) 18 人
		合計 (4 月～3 月)	合計 1060 人

〈こまつ市民大学〉

・こまつ市民大学は、世代や立場、組織を超えて、地域で活躍する人材育成拠点(学びの場)として2018年から開設され、小松市、小松商工会議所、小松市まちづくり市民財団、小松市社会福祉協議会、公立小松大学が連携・協力して運営を行った。中央キャンパスを講座の会場として貸し出しするとともに、講座の多くを教員が担当し、市民の学び足し・学び直しへの貢献を図った。令和7年度実績は以下のとおり。なお、こまつ市民大学は第7期(R7年8月まで)をもって閉講した。

○R7年度実績

・第7期講座(4月～8月)

教員担当講座数:5件 教員数(延べ):5人 受講者数(延べ):93人

講座名	講師	教員数	受講者数
世界の情勢を読む講座(第2弾)	望月講師(国際)	1人	23人
『源氏物語』の読み方、読まれ方	西村教授(国際)	1人	18人
初めて学ぶ心の理論	木村准教授(国際)	1人	18人
話し方大学	松木講師(キャリアサポートセンター)	1人	23人
道の駅と観光	中子教授(国際)	1人	11人

〈社会人教育プログラム ものづくり人材スキルアッププログラム〉

・ものづくり企業を対象とした実践的教育プログラムを実施し、前期20人(15社)、後期19人(16社)あわせて39人が受講し、生産管理技術や工場経営管理を学んだ。また、後期中間において、積雪による運営負担や安全面への配慮を契機として、会場を創造プラザセミナールームから中央第2キャンパス オープンスタジオへ変更した。以降の講義は同会場で開催しており、次年度以降も引き続き中央第2キャンパスでの実施を予定している。R6後期から、時代に合った科目を取り扱うべく、DX入門講座を新規開講している。なお、プログラム講師の高齢化が進んでおり、コーディネーター業務を担当していた林特任教授からも辞任の申し出があり、後任についてコマツ栗津工場に人選を依頼中。科目担当者についてもR8年度より3名の交代を予定している。

○開催概要と実績

【プログラム科目】

「Aコース」7科目:生産管理、品質管理、安全衛生管理、環境管理、企業人のスキル、生産課題演習、生産技術

「Bコース」6科目:方針管理、経理・財務管理、身近なマーケティング、人材育成・能力開発、原価管理、DX入門

「総合コース」13科目:上記Aコース・Bコースのすべての科目

【前期開講】

開講期間:5月15日(木)～9月1日(月)(5月14日(水)開講式、6月20日(金)工場見学、9月17日(水)閉講式)

受講者数:計20人(15社)

受講内訳:総合2名、A5名、選択A2名、選択B11名

【後期開講】

開講期間:10月16日(木)～2月2日(月)(10月15日(水)開講式、12月12日(金)工場見学、2月16日(月)閉講式)

受講者数:計19人(16社)

受講内訳:総合2名、A1名、選択A7名、B3名、選択B6名

◎評価指標

22. 市民公開講座（こまつ市民大学、シンポジウム、フォーラム、セミナー等）の開講件数：20 件以上／年度

考え方：こまつ市民大学は教員数(延べ)をカウント
部局：総務課

R6 (2024) 年度実績	R7 (2025) 年度実績	R6 (2024)～R11 (2029) 年度目標値
20 件	25 件	20 件以上／年度

(内訳)

- ・市民公開講座～Open UniverCity～ 16 件
(アカデミックリーダーズセミナー 6 件、国際交流センターセミナー 1 件、次世代考古学研究センターセミナー 4 件、市民公開フォーラム 2 件、南加賀の歴史と文化 1 件、英会話カフェ 1 件、中国語カフェ 1 件)
- ・シーズ・ニーズマッチングシンポジウム 1 件
- ・こまつ市民大学 5 件
- ・公立小松大学協力会特別講演会 1 件
- ・中央第2キャンパス開設記念 公開講座「医療と文化ー遺伝と病気」 1 件
- ・ものづくり人材スキルアッププログラム 1 件



アカデミックリーダーズセミナー



市民公開講座～Open UniverCity～
パンフレット



市民公開フォーラム 2025
「スポーツ医学・工学・ツーリズム」

Ⅲ-4 学びを地域の活力に		地域貢献
Ⅲ 地域貢献に関する目標		
4 学びを地域の活力に		
中期目標	多くの企業、施設、店舗、町内会等の理解のもとに、学生の活動や市民との交流を地域全体で展開するとともに、学生が地域と協働して課題解決に取り組み、持続可能な地域づくりに貢献する。	
中期計画	①企業、施設、店舗、町内会等の理解のもと、サークル活動やボランティア活動等を広く展開する。 ②学生が地域と協働して課題解決に取り組む機会を創出し、持続可能な地域づくりに貢献する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈地域行事への参加〉 ・お旅まつりなど地域行事への学生参加を促し、大学のPRを行うとともに、学部学科専攻の垣根を越えた交流の場を提供した。伝統的な祭事は留学生にとっても日本文化を感じられる良い機会となっている。その他のボランティア要請については、学生の主体性を尊重した上での参加となるよう留意して対応した。 ○祭事参加実績 ・5月10日（土）お旅まつり曳山行列に寺町、西町の曳き手として参加 計19人 学生16名（看護4名、臨床4名、国際4名、大学院2名、交換留学生2名） 事務職員3名 ・9月13日（土）～10月17日（金）こまつの杜かかしコンクールに出展 参加サークル：公立小松大学ポケモンサークル（所属：22名） ・10月11日（土）どんどんまつり 能登キリコ担ぎ手 計5人 学生5人（国際2人、大学院1人、交換留学生2人） 「こまつの町家めぐり」スタンプラリーイベント 国際文化交流学科学生6人（学生企画） 〈サークル・ボランティア活動状況〉 ・学生サークル登録団体は、新規3団体、継続28団体の計31団体となった。6月に学生団体の代表者および顧問に対し、課外活動の注意点や大会参加費や登録料の補助制度について説明会、2月に活動実績報告書や次年度のサークル継続申請についての説明会を実施するなど、安全管理及び指導を図った。また外部からのボランティア活動の依頼について、各サークルに案内し参加を促した。 〈第8回公立小松大学青松祭〉 ・地域の団体・企業と協力（協賛120社）し、学生実行委員会が主体となって企画実施した。10月18日、19日の2日間開催とし、「翔ける！小松 Revolution」をテーマに、スペシャルゲストによるお笑いライブ、学科紹介、模擬店、カラオケ大会、ステージ発表など多彩なプログラムを実施した。外部出展は「社会福祉法人なごみの郷」、「小松市消防団」、「小松市くらし安心ネットワーク協議会」、「選挙管理委員会」、「小松市交流協会」の5団体であった。 〈産官学合同シリコンバレー研修〉 ・大学主催の産官学合同研修として5回目、産官学連携としては3回目の実施となった。参加者アンケート結果では、現地企業人との交流やプレゼンテーション体験など、参加者の主体性を重視した内容が高く評価された一方で、参加者間の事前交流が不足していたことやグループ活動の進行にばらつきが見られたことから、事前準備の重要性が改めて認識され、次年度の実施に向けて協議を進めた。	



◀かかしコンクール出展作品

	○開催概要 ①事前研修：6月18日（水）、7月26日（土）、8月8日（金）全3回 榊本博之特任教授による、現地研修に向けた事前講義、グループワーク。 ②事前オリエンテーション・説明会：7月2日（水）～7月30日（金）全3回 地域連携推進センター事務局による研修に関する事務手続き・注意事項の確認、国際交流センター主催の健康講座・危機管理セミナー など ③現地研修：8月24日（日）～8月30日（土） 参加者：学生11名（生産8名、国際2名、看護1名）、企業・行政7名（4団体） 随 行：教員2名 (1)現地在住の日本人エンジニアや起業家などによる特別講義やディスカッション、Apple や Google などのシリコンバレーを代表するテック企業の Visitor Center や現地企業、大学への訪問・視察。 (2)事前研修で4グループに分かれ、グループごとに課題を設定しその解決策の探求として、スタンフォード大学やサンフランシスコベイエリアを訪れてのインタビューやアンケート調査、シリコンバレーで働く企業人との意見交換を実施。 ④帰国後の報告会：9月24日（水） 研修に参加した学生11名がグループごとに、本研修を通して考案した課題の解決策やビジネスプランを発表。 〈京都ではたらく動画コンテスト〉 ・国際文化交流学科3年生が京都ジョブパーク主催の「京都ではたらく動画コンテスト」に参加し、京都府の丹後地域で働く魅力をPRする動画を制作した。
--	---

◎評価指標

24. 学生のボランティア件数：20 件以上／年度

考え方：ゼミ・サークル・課外活動・事務局主導などによるボランティアへの参加件数
部局：総務課・学生課・各学部（各専攻）

R6 (2024) 年度実績	R7 (2025) 年度実績	R6 (2024)～R11 (2029) 年度目標値
56 件	45 件	20 件以上／年度

- （内訳）
- お旅まつり（曳山行列曳手、曳山組み立て） 2 件
 - どんどんまつり能登キリコ担ぎ手 他 1 件
 - 苔の里フィールドワーク 1 件
 - かかしコンクール 1 件
 - 献血推進サークルー献血キャンペーン等 3 件
 - ボランティアサークルー海外にルーツを持つ子供達への学習支援 25 件
 - ー鉄人レース運営補助等 1 件
 - ー輪島市災害ボランティア 1 件
 - ー上表口町との交流事業等 4 件
 - ーその他イベント補助等 5 件
 - 第8回公立小松大学青松祭 運営 1 件



ボランティアサークル
KOMATSU 全日本鉄人レース 2025

25. 学生のボランティア・地域行事参加人数（サークル活動含む）：100 人以上／年度

考え方：ゼミ・サークル・課外活動・事務局主導などによるボランティアへの人数（延べ人数）

部局：総務課・学生課・各学部（各専攻）

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
362 人	336 人	100 人以上／年度

（内訳）

- お旅まつり（曳山行列曳き手）19 人
- お旅まつり（曳山組み立て）17 人
- 苔の里フィールドワーク 8 人
- どんどんまつり 14 人（能登キリコ担ぎ手：5 人、スタンプラリー企画：6 人、ステージPR：3 人）
- かかしコンクール（ポケモンサークル） 22 人
- 小松活性化サークルーパンフレット・記事作成 8 人
- ボランティアサークルー海外にルーツを持つ子供達への学習支援 48 人
 - ー鉄人レース運営補助等 8 人
 - ー輪島市災害ボランティア 2 人
 - ー上麦口町との交流事業等 32 人
 - ーその他イベント補助・地域交流 34 人
- ダンスサークルーイベント・コンテスト出場 10 人
- 競技麻雀部ー健康麻将交流大会 8 人
- 茶道サークルー茶会 3 人
- 地域実習 37 人
- 第 8 回公立小松大学青松祭運営ー実行委員 66 人



アントレプレナーサークル
（平成レトロなフォトスポット展）



お旅まつり（曳山行列曳き手）



献血推進サークル（学内献血）

IV-1-(1) 機動的な管理体制の構築と適切性の確保		業務運営
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標		
1 組織運営の改善に関する目標		
中期目標	内部統制機能を実質化させるため、経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長のリーダーシップのもとに、社会の変化に柔軟かつ機動的に対応しうる戦略的な大学運営を行う。また、多様なステークホルダーの幅広い意見を聴き、その知見を大学経営に反映させる。	
中期計画	①内部統制機能を実質化させるため、理事長及び学長のリーダーシップのもとに、強靱なガバナンス体制を構築し、社会の変化に柔軟かつ機動的に対応しうる、戦略的な大学運営を行う。 ②大学の業務の成果を最大化できる経営を実現するとともに、経営の透明性を高め、社会への説明責任を果たすため、小松市、市民、地域企業、同窓会をはじめとする多様なステークホルダーの幅広い意見を聴き、その知見を大学経営に反映させる。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈大学運営〉 ○法人会議 【経営審議会・理事会】 ・6月26日 事業報告・決算報告・監査結果報告 他 ・9月26日 予算編成方針 他 ・12月24日 給与規則改正 他 ・3月24日 次年度予算・教員人事 他 【教育研究審議会】 ・年14回開催 【学長選考会議】 学長の任期満了に伴い、学長選考を実施した。令和7年度学長候補者選考の経緯は下記のとおり。 ・4月 第1回会議－令和6年度学長業績評価（書面附議） ・6月26日 第2回会議－学長候補者選考実施要領の確認、学長候補者選考スケジュールの確認 ・7月7日 「公立小松大学学長候補者選考 実施要領」を大学HPで公表 ・7月7日～8月22日 学長候補適任者の推薦受付 ・8月20日 学長候補適任者 推薦書受理 ・9月8日 第3回会議－学長候補適任者を審議・決定、所信を聴く会及び学内意向調査の実施方法の確認 学長候補適任者へ決定通知、「所信を聴く会」を対象者に通知 ・9月26日 第4回会議－学長候補適任者の所信を聴く会実施 ・9月26日～10月3日 意向調査実施 ・11月7日 第5回会議－意向調査結果の報告、学長候補適任者個別面接、学長候補者の選考・決定 ・11月7日 学長候補者を理事長へ報告、大学ホームページにて公表 ・2月～3月 現学長の業績評価の実施 ・3月19日 第6回会議－学長の業績評価を実施 ・3月26日～30日 第7回会議（書面開催）－業績評価書（案）の承認 ・3月31日 理事長・学長へ業績評価を通知、大学ホームページにて公表 〈同窓会〉 6月21日に令和7年度総会を開催した。（決算報告、予算・事業計画の承認）総会後には初開催となる懇親会を行った。事務局において、会報の作成、大学祭への協力など令和7年度同窓会活動を支援した。	



同窓会懇親会

	正会員（卒業生）793 名／準会員（在学生）1,030 名（令和 8（2026）年 3 月 31 日時点） ・5 月 10 日 役員会の開催（総会及び懇親会の打ち合わせ） ・6 月 21 日 令和 7 年度総会及び懇親会の開催 ・9 月 30 日 同窓会報 VOL. 4 発行 ・1 月 25 日 役員会の開催（新キャンパス開設記念贈呈品等の協議）
--	--

◎評価指標

26. 大学が地域に及ぼす経済波及効果調査の実施（第 2 期中期計画期間中）

考え方：経済波及効果調査の実施状況
 部局：総務課

R6(2024) 年度実績	-
R7(2025) 年度実績	-
R6(2024)～R11（2029）年度目標値	第 2 期中期計画期間中に実施する

IV-1-(2) 組織力の強化		業務運営
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標		
1 組織運営の改善に関する目標		
中期目標	公立小松大学としてふさわしい組織風土の醸成に努め、教職員全員が法人の目的及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能を最大化させる。	
中期計画	教職員全員が大学憲章、中期目標など大学のビジョン及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の向上に取り組む。	
R7(2025) 年度の主な実績 点検評価	〈組織整備〉 ・学生および職員が持つ多様な能力を最大限に活かせるよう、4 月より「ヒューマンリソースコーディネーション機構」を新設し、諸規則を整備し、部局横断的な支援と関係部署との連携・調整を行う体制を構築した。 ・令和 8（2026）年 4 月の人事課新設に向けて、関連する各種規則等の改正作業を実施。また、新年度に向けて、役員改選の手続きのほか、各種委員会委員、大学コンソーシアム石川の運営委員等の取りまとめに加えて、教員の異動・採用に伴う研究室の設備や什器の購入も滞りなく行った。	

◎評価指標なし

Ⅳ-2 教育研究組織の見直し		業務運営
Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標		
2 教育研究組織の見直しに関する目標		
中期目標	教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能し得るよう、教育研究組織について適宜見直しを行う。	
中期計画	教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能するために、学部学科・研究科専攻や入学定員の改変等、必要に応じて教育研究組織の見直しを行う。	
R7(2025)年度 主な実績 点検評価	・生産システム科学部においては、学生確保を目的に、学校推薦型選抜（県内推薦）を北陸3県まで枠を広げて、学校推薦型選抜（北陸3県推薦（一般枠・女子枠））を実施した（志願者及び受験者18人、合格者16人）。また、前年度に引き続き、令和8(2026)年度一般選抜（前期日程）では試験会場を名古屋にも設置し、名古屋会場での受験者数は前年度より4人増加した。なお、令和9(2027)年度一般選抜（前期日程）では、国際文化交流学部においても試験会場として新たに名古屋会場を追加する予定である。 ・保健医療学部看護学科においては、保健医療専門者の育成やグローバル人材輩出を目的に、小松市の地域特性を考慮した外国にルーツをもつ生徒を対象とした特別選抜を実施した。（志願者1人、受験者及び合格者1人） ・多様な背景を持つ学生への対応及び国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目的として、R9(2027)年度入学選抜からの外国人留学生特別選抜の導入に向けた検討を開始した。 ・18歳人口の減少に伴う入学者の確保や多様なルーツの学生確保のため、R10(2028)年度入学選抜からの総合型選抜の導入に向けた検討を開始した。 ・公立小松大学の学生・教職員支援に係る全ての部署やセンターと連携・協働し、一人ひとりが尊重され、力を発揮できるよう、安心して学び働ける環境づくりを推進するため、ヒューマンリソースコーディネーション機構（HRC機構）を新設し、諸規則を整備した。	

◎評価指標なし

Ⅳ-3-(1) 教職員の人材確保と適正配置		業務運営																
Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標																		
3 人事の適正化に関する目標																		
中期目標	教職員の採用・人員配置を計画的に行うとともに、多様な人材を確保し、質の高い教育研究及び大学運営を推進する。																	
中期計画	①教職員の採用においては、多様な知識・経験を有する質の高い人材を確保するとともに、職位や年齢、専門性等のバランスのとれた教職員構成となるよう取り組む。 ②教職員の教育、研究、その他業務の実績を十分考慮した上で、適材適所の人員配置を計画的に行う。																	
R7(2025)年度 の 主な実績 点検評価	・教員の定年退職等に伴う後任補充のため、求人公募情報 JREC-IN Portal（国立研究開発法人科学技術振興機構）において教員公募を実施し、多様な知識・経験を有する教員を確保した。また小松市との人事交流（受入れ3名、派遣1名）を継続し人事育成を図っている。 【R7 年度実施 教育職員試験の採用実績】 ○臨床工学科（教授、准教授、講師または助教3名募集） 2人採用 ○看護学科（小児看護学・教授、准教授、講師または助教1名募集） 1人採用 ○国際文化交流学科（日本文学・地域文化 教授、准教授1名募集） 2人採用 ○看護学科（母性看護学・教授、准教授、講師または助教3名募集） 1人採用 ○看護学科（成人看護学・教授、准教授、講師または助教1名募集） 2人採用 【R7 年度実施 職員採用試験の採用実績（事務職 1人程度）】 ○事務職1人程度募集 1人採用 【R7 年度実施 職員採用試験の採用実績（機械系技術職1人）】 ○機械系技術職1人募集 1人採用 【R7 年度実施 障害者雇用の採用実績】 ○インターン6月、10月実施 1人採用 【事務正職員採用試験（登用試験）】 ○3名エントリー、3名合格 〈教職員数内訳〉学校基本調査5月1日 <table> <tr> <th>分類1</th><th>分類2</th><th>人数</th></tr> <tr> <td rowspan="6">教育職員</td><td>学長・副学長</td><td>2</td></tr> <tr> <td>生産システム科学科</td><td>21</td></tr> <tr> <td>看護学科</td><td>24</td></tr> <tr> <td>臨床工学科</td><td>11</td></tr> <tr> <td>国際交流学科</td><td>18</td></tr> <tr> <td>大学院</td><td>3</td></tr> </table>		分類1	分類2	人数	教育職員	学長・副学長	2	生産システム科学科	21	看護学科	24	臨床工学科	11	国際交流学科	18	大学院	3
分類1	分類2	人数																
教育職員	学長・副学長	2																
	生産システム科学科	21																
	看護学科	24																
	臨床工学科	11																
	国際交流学科	18																
	大学院	3																

			キャリアサポートセンター	1	
			HRC 機構	1	
			国際交流センター	1	
		医療職員	常勤	3	
			非常勤	1	
		技術職員	常勤	1	
		事務職員	常勤	32	
			非常勤	9	
		合 計		128	

◎評価指標なし

IV-3-(2) 教職員の能力向上と評価制度の充実		業務運営
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標		
3 人事の適正化に関する目標		
中期目標	教職員に組織の方針を徹底し、その能力を最大限有効に活用していくため、FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を推進する。また、教職員のエフォート及び実績を適切に評価する制度を構築することによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動及び業務の活性化を図る。	
中期計画	① 教職員に組織の方針を徹底し、その能力を最大限有効に活用していくため、FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）活動を推進し、教職員の資質・能力・意欲向上を図る。 ② 教職員のエフォート及び実績が処遇に適切に反映される評価制度を構築、実施する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・教職員の資質能力の向上を図るため、大学主催研修会を10回実施するとともに、大学コンソーシアム石川や公立大学協会など外部主催の各種研修会を教職員に案内し、大学主催研修会に276人、その他主催研修会に117人が参加した。R7年度実績は以下のとおり。 【大学主催】 ・4月3日 財務会計システム操作等研修会 教員3人、職員4人参加 ・4月7日 令和7年度新規採用教職員研修 山本学長・酒井事務局長講話「公立小松大学について知る」 教員3人・職員4人参加 ・6月11日 ハラスメントに関する相談員研修会 講師：志村副学長、HRC 機構 橋本みの里 相談員13人参加 ・7月30日 第1回FD・SD研修 「ハラスメント防止について」 講師：志村副学長 教職員105人参加 ・12月2日、3日 文書管理システム操作研修会 職員41人参加 ・1月21日 看護学科第1回FD研修 「外国にルーツをもつ生徒が入学した場合の予想されることと対応」 担当：片山教授、彦学科長、徳田学部長 教員20人参加 ・2月13日 第1回FD研修 「一人ひとりを大切にする」とは？ 講師：志村副学長 教員21人参加 ・2月17日 第2回FD研修 「一人ひとりを大切にする」ためのスキルとしての傾聴 講師：志村副学長 教員24人参加 ・2月20日 第3回FD研修	

- 「一人ひとりを大切にする」ためのアクティブラーニング(ペア・グループ学習)
 講師：志村副学長
 教員 18 人参加
- ・3月18日 看護学科第2回FD研修
 「穏やかで、お互いに支え合う職場環境のためのコミュニケーション」
 講師：志村副学長
 教員 20 人参加
 - ・12月26日 第2回FD・SD研修 開催予定 国際交流センター主催（悪天候のため延期）
 「海外研修等に係る危機管理訓練」
 講師：日本アイラック株式会社

【その他主催】

- ・4月18日 公立大学協会主催 オンライン配信
 「公立大学に関する基礎研修」
 講師：文部科学省 高等教育局 大学教育・入試課 公立大学協会事務局長 中田 晃 氏
 教職員 7 人参加
- ・5月～6月 研究倫理eラーニング
 講師：日本学術振興会等
 教職員 87 人参加
- ・受講期間 5月23日～6月4日 厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター（eラーニング）
 「大学における自殺対策推進のための研修」
 教職員 7 人参加
- ・6月25日 ライフプランセミナー
 「将来差がつくお金の貯め方」
 講師：株式会社北國銀行 改瀬 聖栄 氏
 教職員 12 人参加
- ・8月7～8日 公立大学協会主催 公立大学職員セミナー（中堅職員向け）職員 2 人参加
- ・8月25～26日 公立大学協会主催 公立大学職員セミナー（初任職員向け）職員 2 人参加



FD研修「一人ひとりを大切にする」

◎評価指標

27. FD及びSDの実施回数：3件以上／年度

考え方：大学主催の全学的なFD・SD研修の開催回数

部局：総務課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11(2029)年度目標値
3件	6件	3件以上／年度

(内訳)

- 第1回FD・SD研修 ハラスメント防止について
- 第1回FD研修 「一人ひとりを大切にする」とは？
- 第2回FD研修 「一人ひとりを大切にする」ためのスキルとしての傾聴
- 第3回FD研修 「一人ひとりを大切にする」ためのアクティブラーニング(ペア・グループ学習)
- 第2回FD・SD研修 「海外研修等に係る危機管理訓練」※悪天候のため延期
- 看護学科第1回FD研修 「外国にルーツをもつ生徒が入学した場合の予想されることと対応」
- 看護学科第2回FD研修 「穏やかで、お互いに支え合う職場環境のためのコミュニケーション」

IV-4 業務の能率向上		業務運営
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標		
4 業務の能率向上に関する目標		
中期目標	事務等の効率化・合理化に向けた事務運営体制の見直し、D X（デジタルトランスフォーメーション）等のデジタル化の推進、外部委託の活用等により、業務の効率化・合理化を図る。	
中期計画	①事務等の効率化・合理化に向けた事務運営体制の見直し、D X（デジタルトランスフォーメーション）等のデジタル化の推進、外部委託の活用等の検討を進め、業務の効率化・合理化を図る。 ②教職員一人ひとりがコスト意識を高め、既存の業務の見直しや情報システムの活用を推進し、一体となって業務の効率化・合理化に取り組む。	
R7 (2025) 年度の主な実績点検評価	・事務の効率化・合理化に向け、全学会議のペーパーレス化をさらに推進するとともに、起案・決裁文書の電子決裁(文書管理)システムを導入し、令和8年1月1日から運用を開始した。これにより、決裁スピードの向上及びペーパーレス化の推進につながった。また、定型委託業務（毎年度）の長期継続契約化を実施し、事務手続きの簡素化を図った。 (R7 年度長期継続契約化実績) R8.4.1～R11.3.31 マット及びモップレンタル業務 ・子ども・子育て支援法に基づき、令和8年度4月から新たに徴収が開始される「子ども・子育て支援金」について、給与業務を円滑に行うため、人事給与システムを改修し、「子ども・子育て支援金」に対応したプログラムを導入した。 ・国家公務員等の旅費に関する法律が約70年ぶりに改正されたことに伴い、国の法令を準拠し公立大学法人公立小松大学職員等旅費規則等を改正した。9月17日、18日に教職員に対し、旅費制度改正に関する事前説明会を開催し、教職員95名（対面・オンライン）が参加した。 ・中央第2キャンパスに電子黒板（ビックパッド）1台を導入。会議から授業まで多彩な場面で利用できる大型タッチディスプレイで、オンライン会議・学内掲示・ホワイトボード等として幅広く活用している。 ・成績表について、紙媒体での配布を廃止し、卒業写真についても Web ダウンロード方式に変更し、業務の簡略化・ペーパーレス化の推進を図った。 また令和9（2027）年度入学者より、入学手続きのオンライン化を検討している。	

◎評価指標

28. D X等デジタル化を取り入れた業務改善実施件数：1件以上／年度

部局：総務課・財務課・学生

年度	業務改善内容	実施件数
R6 (2024) 年度実績	○全学会議のペーパーレス化の導入（教育研究審議会ほか）	1 件
R7 (2025) 年度実績	○電子決済（文書管理システム）導入 ○会議等への電子黒板（ビックパッド）導入	2 件
R6 (2024)～R11（2029）年度目標値		1 件以上／年度

V-1-(1) 学生納付金		財務
V 財務内容の改善に関する目標		
1 自己収入の増加に関する目標		
中期目標	効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。また、社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案して、適切な料金設定と安定した収入確保に努める。	
中期計画	①効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。 ②授業料等の学生納付金については、社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案し、適宜その妥当性を検証した上で、適切な料金設定を行う。	
R7(2025)年度 主な実績 点検評価	・学生等納付金収入は前年度比約1億円減少したが、この主な要因としては、令和7（2025）年度から開始された多子世帯に対する授業料等減免制度により、当該制度の適用対象となる学生が多かったことが挙げられる。なお、減免分は国を通じて市から運営費交付金として補填があった。 〈学生募集活動〉【Ⅱ-1-（4）入学者選抜再掲】 ・志願者増加に向け、北陸三県4会場において、54校63人に対して、進路指導教諭向け大学説明会を実施するとともに、オープンキャンパス（高校生549人、保護者236人）、教職員による高校訪問（北陸三県、新潟、長野、岐阜、静岡、愛知、三重のべ125校）を企画・実施した。また、業者主催の進路相談会に、北陸三県、新潟、長野、愛知、静岡、大阪、東京会場合わせて20回参加した。大学PR冊子として「おはこにあふれた公立小松大学」を新規制作、配布した。学士課程全体のR8年度志願倍率は6.07倍となり目標値3倍を大きく上回った。 ・志願者確保に向け、高校1、2年生を対象に気軽な気持ちでキャンパス見学や学生交流ができる催しとして、平日放課後☆ふらっとキャンパス見学会（高校生21人、保護者7人）を企画・実施した。また、高校教員や高校生に公立小松大学での学びや成長を感じていただけるようSCHOOL VISIT（母校訪問）を来年度実施に向けて企画した。 ◎入試説明会実績 ・進路指導教諭向け大学説明会 6/30 小松会場 21校 24人、7/1 富山会場 11校 11人、7/3 福井会場 8校 9人、7/4 金沢会場 14校 19人 ・オープンキャンパス 7/19 高校生 549名・保護者 236名参加 ・教職員による高校訪問 5月下旬～7月 石川 25校、福井 10校、富山 10校、新潟 5校、静岡 3校、愛知 5校、三重 6校 9月中旬 石川 24校、福井 10校、富山 9校、長野 11校、岐阜 7校	

◎評価指標

29. 自己収入額：7億円以上／年度

部局：教育企画委員会・各学部（各専攻）・財務課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
850,256,109 円	749,939,740 円	7 億円以上／年度

(内訳)	
学生等納付金	604,549,975 円
受託研究等収入	91,444,366 円
財務収入	5,984,160 円
雑収入	47,961,239 円

V-1-(2) 外部研究資金等の獲得										財務
V 財務内容の改善に関する目標										
1 自己収入の増加に関する目標										
中期目標	科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費、その他外部研究資金、基金への寄附金等の確保に努める。									
中期計画	①科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費、その他外部研究資金の確保に努める。 ②科学研究費補助金やその他外部研究資金に関する情報の収集に努めるとともに、申請に対する支援体制を充実し、外部資金獲得に向けて積極的な応募を全教員に奨励する。 ③大学の特色・魅力や教育研究等の成果を広く発信し、共同研究、受託研究、基金への寄附金等の増加を図る。 ④教育研究の更なる発展を支えるに足る新しい財源投入の仕組みを追求する。									
R7(2025) 年度 主な実績 点検評価	・科学研究費の獲得を目ざし、各学科において申請等及び獲得に向けた説明や指導を行った結果、若手研究6人、基盤研究(B)2人、基盤研究(C)5人、研究活動スタート支援1件、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）1件の合計15人が新規採択され、科学研究費補助金採択件数は計52件（新規15件、継続29件、延長8件）となったほか、各種財団等からその他外部資金を獲得した。 ○科学研究費補助金採択件数（継続含む）：30件以上/年度 R7実績：52件(新規:15件、継続:29件、延長8件) (R6) 53件(新規:14件、継続:29件、延長10件) ※科学研究費補助金入金額 R7実績：81,574,496円、(R6) 86,949,734円 (内 訳) 新規 15件(基盤B2件、基盤C5件、若手6件、研究活動スタート支援1件、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）1件) (R6) 14件(基盤B2件、基盤C9件、若手3件) 継続 29件(基盤S1件、基盤B5件、基盤C16件、若手5件、挑戦的研究(開拓)1件、特別研究員奨励費1件) (R6) 29件(基盤S1件、基盤B3件、基盤C18件、若手3件、挑戦的研究(開拓)1件、挑戦的研究(萌芽)1件、特別研究員奨励賞1件、研究活動スタート支援1件) 延長 8件(基盤C6件、若手1件、挑戦的研究(萌芽)1件) (R6) 10件(基盤C5件、若手4件、挑戦的研究(開拓)1件) ○その他の外部研究資金採択件数：15件以上/年度 R7実績：27件(助成金23件、奨学寄附金4件) (R6) 助成金28件、奨学寄附金4件 ※R7実績 助成金入金額：21,770,898円、奨学寄附金入金額：2,872,591円 (R6) 助成金入金額：36,166,111円、奨学寄附金入金額 1,567,141円 (内 訳) 助成金：新規12件、継続11件 R6 新規17件、継続11件 奨学寄附金：新規1件、継続3件 R6 継続3件、移管分1件 ○大学基金への寄附件数：50件以上/年度 R7実績：20件(4,588,000円) (R6) 33件(12,220,000円) (内 訳) 生徒・保護者 (R7) 1件 (2,000円) (R6) 9件 (60,000円) 企業 (R7) 4件 (2,350,000円) (R6) 8件 (8,850,000円) 個人 (R7) 3件 (1,101,000円) (R6) 3件 (2,100,000円) 大学関係者 (R7) 12件 (1,135,000円) (R6) 13件 (1,210,000円)									

30. 科学研究費補助金採択件数（継続含む）：30 件以上／年度

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・財務課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
43 件	52 件	30 件以上／年度

（内訳）

新規 15 件(基盤 B 2 件, 基盤 C 5 件, 若手 6 件, 研究活動スタート支援 1 件, 国際共同研究加速基金（国際研究強化）1 件)

継続 29 件(基盤 S 1 件、基盤 B 5 件、基盤 C 16 件、若手 5 件、挑戦的(開拓)1 件、特別研究員奨励費 1 件)

延長 8 件(基盤 C 6 件、若手 1 件、挑戦的(萌芽)1 件)

31. その他外部研究資金採択件数：15 件以上／年度

考え方：科研費、共同研究・受託研究を除く各種助成金・奨学寄附・応募型受託研究等

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・財務課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
32 件	27 件	15 件以上／年度

（内訳）

助成金 23 件、奨学寄附金 4 件

32. 大学基金への寄附件数：50 件以上／年度

部局：研究社会連携委員会・各学部（各専攻）・財務課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029）年度目標値
33 件	20 件	50 件以上／年度

（内訳）

生徒・保護者 1 件

企業 4 件

個人 3 件

大学関係者 12 件

V-2 経費の削減		財務
V 財務内容の改善に関する目標		
2 経費の節減に関する目標		
中期目標	安定的な大学運営を行うため、教育研究の水準の維持・向上に配慮しながら、予算の見直し及び効率的な執行により経費の節減に努める。	
中期計画	業務の内容を定期的に点検し、教育研究の水準の維持・向上に配慮しながら経費節減に努めるとともに、優先度に応じたメリハリのある効果的な予算配分及び適正な予算執行を行う。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・入札業務については、「より良いもの」「より安いもの」を選定するように心掛けた。R7(2025)年10月の中央第2キャンパス開設に向けて、音響設備、什器等の入札案件が多数あり、競争入札により価格抑制を図ることができた。 什器一式 予算 34,259 千円⇒28,864 千円、音響設備一式(リース) 予算 3,231 千円⇒1,980 千円、入退館システム 予算 2,039 千円⇒1,469 千円等 その他 公用車(軽自動車) 予算 1,880 千円⇒1,463 千円、公用車(コンパクトカー) 予算 2,470 千円⇒1,910 千円、学生ロッカー(88 台) 予算 5,449 千円⇒5,071 千円等 ・本学インフラ長寿命化計画の推進及び2027年末までに蛍光灯製造及び輸出入が禁止されることから、令和7年度は末広キャンパス、令和8年度は栗津キャンパス及び学生寮の全ての照明をLED照明に計画的に取替え、照明器具の長寿命化を図るとともに電気料の削減に努める。 末広キャンパスの電気料削減効果：165,122 円/年×15 年(LED 電球・照明の寿命)=2,476,830 円	

◎評価指標なし



複合ビル「ウレシヤス小松」の4階に
中央第2キャンパスを開設

V-3 資産管理の改善		財務
V 財務内容の改善に関する目標		
3 資産管理の改善に関する目標		
中期目標	大学施設や知的財産等、法人が保有する資産の適正な管理を図るとともに、資産の有効な活用に努める。	
中期計画	①大学の施設設備の適切かつ計画的な保守管理を行う。 ②大学運営に支障が生じない範囲内で施設の一般利用を促進し、適切な運営を図る。 ③特許出願・維持、技術移転等を適切に行い、知的財産の有効な活用と正当な権利の確保に努める。 ④資産の状況を定期的に把握・分析し、適正に管理する。	
R7(2025)年度 主な実績 点検評価	・従来の3キャンパスに加え、中央第2キャンパスを10月に開設したことで、本学施設の一般利用を促進し、地域の文化やスポーツの発展に寄与することができ、併せて自主財源の獲得を図ることができた。(施設貸付料収入：令和7(2025)年度 1,353,400円、令和6(2024)年度 1,499,200円) ・流動資産(現金・預金の運用)については、資産の現況を把握しながら積極的な運用(定期預金及び債券購入)により利子収入の増に努めた。 (令和7(2025)年度受取利息：5,926,057円) 定期 5億5千万円、債券 4億円(令和8年3月31日現在) [附属図書館] ・蔵書点検を行い、資産の状況を定期的に把握・分析し、適正に管理している。以下のとおり各館で実施し、紛失図書リストをホームページ上で公開した。 ○栗津図書館一実施期間：令和7年8月18日～8月21日／点検数：34,665点、紛失点数：19点(うち今年度紛失点数：9点) ○末広図書館一実施期間：令和7年8月12日～8月14日／点検数：15,082点、紛失点数：24点(うち今年度紛失点数：16点) ○中央図書館一実施期間：令和8年1月5日～1月8日／点検数：18,469点、紛失点数：45点(うち今年度紛失点数：12点)	

◎評価指標

23. 大学施設貸出件数：50件以上／年度

考え方：申請に基づき貸し出しを行ったもの(1日1件としてカウント)

部局：総務課・財務課・学生課

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11(2029)年度目標値
91件	69件	50件以上／年度

(内訳)

- 中央キャンパス：こまつ市民大学 21件、日本福祉のまちづくり学会 2件、日本設計工学会北陸支部 1件、能登地区と小松地区の高校生交流会 1件、公立小松大学協力会 1件、観光学術学会 1件、小松市地域交通政策室 1件
- 中央第2キャンパス：(医)和楽仁 1件、駅東地区複合ビル活用促進協議会 1件、大学協力会 1件
- 栗津キャンパス：日本少年野球連盟 1件※、南部ソフトボールリーグ 16件、符津スポーツ少年団サッカー部 13件、小松市サッカー協会 2件、小松市スポーツ育成課 1件、なかよし幼稚園 1件、南部第2高齢者総合相談センター 1件、北國新聞文化センター 1件、小松ライオンズクラブ 1件、日本海トライボロジー研究会 1件 ※年間専用利用は1件としてカウント

VI-1 評価の充実		自己点検・評価
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		
1 評価の充実に関する目標		
中期目標	第2期中期目標の着実な達成に向けて、客観的なデータに基づく自己点検・評価を定期的実施するとともに、第三者評価（認証評価等）を踏まえ、課題の解決を継続的に進め、教育研究活動や業務運営の見直しと改善に取り組む。	
中期計画	①中期目標の着実な達成に向けて、全学的な自己点検評価・内部質保証推進会議を中心に客観的なデータに基づく自己点検・評価を定期的実施する。 ②小松市公立大学法人評価委員会による法人評価及び認証評価機関が行う大学評価を踏まえ、課題の解決を継続的に進め、教育研究活動や業務運営の見直しと改善に取り組む。	
R7(2025)年度 主な実績 点検評価	・学校教育法第109条に基づく自己点検及び評価を、「評価室」及び「公立小松大学自己点検評価・内部質保証推進会議」を中心に実施した。自己点検及び評価結果をもとに、全学、組織、教員の3つの階層でPDCAサイクルを機能させ、内部質保証に支えられた教学のさらなる改善・向上に取り組んだ。 ○評価室 4月10日～11日 第2期中期計画に基づく令和6年度の進捗状況と点検・評価 11月4日、6日、10日 第2期中期計画に基づく令和7年度上半期の進捗状況と点検・評価 3月2日、6日 第2期中期計画に基づく令和7年度の進捗状況と点検・評価 ○自己点検評価・内部質保証推進会議 4月9日 第1回会議－令和6年度卒業時アンケート結果、3年生対象外部アセスメントテスト実施時期 6月11日 第2回会議－令和6年度中期計画進捗状況報告書、新入生対象アセスメントテスト結果 7月9日 第3回会議－令和6年度評価指標 KPI 結果の評価・分析及び令和6年度中期計画進捗状況報告書（改訂版） ・「令和6年度中期計画進捗状況報告書」を作成し、小松市公立大学法人評価委員へ第2期中期計画における進捗状況を報告した。	

◎評価指標

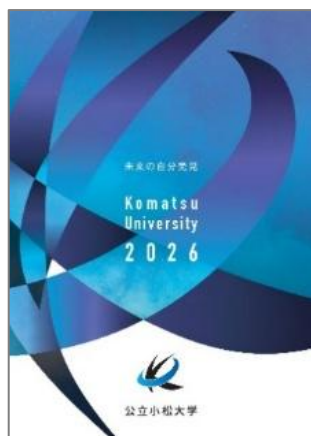
33. 認証評価の受審（第2期中期計画期間中）

部局：総務課

R6(2024)年度実績	－
R7(2025)年度実績	－
R6(2024)～R11（2029）年度目標値	第2期中期計画期間中に受審する ※R11（2029）年度受審予定

VI-2-(1) 積極的な情報提供の推進		情報提供
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		
2 情報公開と情報発信の推進に関する目標		
中期目標	公共性を有する法人として、法人経営・大学運営の透明性を確保するため、教育研究活動や業務運営等に関する積極的な情報提供を行い、社会への説明責任を果たす。	
中期計画	公立大学法人として法人情報の適切な管理に努めるとともに、市民に対する大学経営の透明性を図るため、大学の基本情報や経営情報、教育研究活動、自己点検・評価、外部評価等についてホームページ等により分かりやすくかつ積極的に情報を公開する。	
R7(2025)年度の主な実績 点検評価	- 公立大学法人として、経営の透明性を高め、大学運営の社会への説明責任を果たすことを念頭に、経営状況や自己点検評価結果、教育・研究・地域連携などの活動状況等について適宜大学ホームページに公表した。 - 令和7年10月に開設した中央第2キャンパスについて、PRするチラシを作成したほか、ホームページ、大学広報誌 Tachyon16 号、大学紹介動画で取り上げ、幅広く周知した。チラシは集客施設や公共施設への設置、関係各位へ送付、各種イベント開催の際に配布するなど、開設の機運を盛り上げた。	

◎評価指標なし



大学案内 2026



Tachyon16 号



中央第2キャンパス
開設チラシ



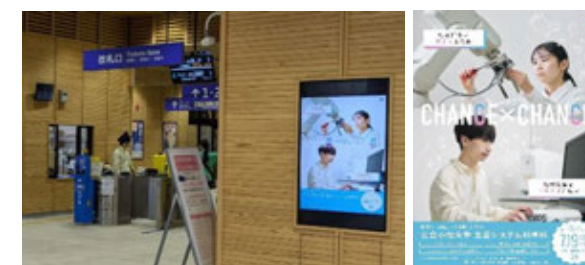
大学紹介動画



大学PRフラッグリニューアル
(小松駅西)



小松空港到着ロビー電子広告



えちぜん鉄道福井駅での
生産システム科学科入試PR

VI-2-(2) 効果的な広報活動の推進		情報提供
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		
2 情報公開と情報発信の推進に関する目標		
中期目標	大学が行う活動について広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、全学的な組織体制のもと、広報活動を推進し、特色ある教育研究活動や地域連携等の活動に関する広報を行う。	
中期計画	学生募集や産学官連携、地域連携活動等について、広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、全学的な組織体制のもと、ホームページ、大学案内誌をはじめとした多様な広報媒体を活用した広報活動を戦略的かつ効果的に実施する。	
R7(2025) 年度の主な実績 点検評価	・広報室において、全教職員へ広報マニュアル（改訂版）の周知を図るとともに、教育企画委員会や研究・社会連携委員会など各種委員会と連携し、きめ細かい情報集約に努め、スピード感をもった戦略的な広報活動を推進した。また、21 人の広報室学生委員がサークルや大学生活等取材し、公式 Instagram 等で発信するなど、幅広い世代をターゲットとした情報発信に努めた。 ・大学ホームページの R7 年度の発信件数は 194 件となり、目標値を大きく上回った。 ・大学案内 2026、大学広報誌 Tachyon、大学広報誌研究版 Tachyon Academia、研究シーズ集・研究者要覧、PR 動画、各種ポスター・チラシを作成し、高校訪問や大学説明会、イベントなどを通じて、学生、一般市民、企業・団体等に大学を PR した。また、シリーズラジオ番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」に、学生が出演し、学生生活、研究、留学などの活動報告を通じて大学の PR を行った。 〈R7 主な実績〉 ① 大学ホームページの運用 ニュース掲載件数 194 件 達成率 129.3%（内訳：ニュース欄 104 件、イベント欄 8 件、研究欄 20 件、国際交流センター23 件、次世代考古学研究センター39 件） ② 大学案内の発行 大学案内（日本語版）全 50 ページ。8,500 部発行。大学案内（英語版）全 17 ページ。200 部発行。 ③ 大学広報誌の発行 大学広報誌 Tachyon15 号・16 号、大学広報誌研究版 Tachyon Academia 5 号 全 8 ページ。それぞれ 4,000 部発行。 ④ 大学紹介動画の改修 タイトル「公立小松大学紹介ムービー フルバージョン」（5 分） 各学科の 3 つの特徴がより分かりやすい動画・説明に改修。就職内定率も最新の情報に更新。 ⑤ ラジオ広報番組の放送 ラジオこまつ・かなざわ・ななお・たかおか 4 局ネット。12 本の番組を放送。 ⑥ 新聞広告の掲載 市民公開フォーラム等、計 3 件の画像入りカラー広告を掲載。 ⑦ 小松駅前タペストリー・小松駅構内電光掲示板での大学 PR 小松駅西 歩道 6 枚、ロータリー 3 枚。IR いしかわ鉄道小松駅改札電光掲示板 1 か所。 ⑧ 小松空港電光掲示板での大学 PR 小松空港国内線到着ロビー電光掲示板 2 か所。 ⑨ 高岡駅とえちぜん鉄道福井駅での生産システム科学科の入試方法変更の PR デジタルサイネージでの PR。	

⑩	中央第2キャンパス設置デジタルサイネージと大型ディスプレイでのPR 学内イベントのお知らせ及び学生が作成した中央第2キャンパスマップの投影
⑪	中央第2キャンパス施設紹介ポスターの掲示 講義室、学生ホール紹介等全5枚を中央第2キャンパスの学生ホールに掲示。
⑫	Youtubeの活用 PR動画2本とラジオ広報番組12本を配信。
⑬	Instagramの活用（広報室学生委員） 投稿数14（フォロワー数356 合計閲覧数34,193 合計いいね数293）
⑭	広報こまつ・情報誌パレットへの掲載 広報こまつ6月号（市民公開講座パンフレット全戸配付） 広報こまつ8月号（市民公開講座アカデミックリーダーズセミナー） 広報こまつ9月号（市民公開講座市民公開フォーラム vol.1「能登半島地震と福祉のまちづくり」、次世代考古学研究センターセミナー） 情報誌パレット南石川 Vol.233 11月発行（市民公開講座市民公開フォーラム vol.2「スポーツ医学・工学・ツーリズム」）

◎評価指標

34. ホームページでの広報の発信件数：150 件以上／年度

考え方：大学にて管理するホームページでの年間のニュース掲載数
部局：広報室・総務課・学生課・次世代考古学センター

R6(2024)年度実績	R7(2025)年度実績	R6(2024)～R11（2029） 年度目標値
154 件	194 件	150 件以上／年度

（内訳）

ニュース欄 104 件、イベント欄 8 件、研究欄 20 件、国際交流センター23 件、次世代考古学研究センター39 件



大型ディスプレイに投影
中央第2キャンパスマップ



中央第2キャンパス施設紹介ポスター
（中央第2キャンパス学生ホール）



ホームページ掲載 中央第2キャンパス紹介

VII-1 施設設備の整備及び活用		その他業務運営
VII その他業務運営に関する目標		
1 施設設備の整備及び活用に関する目標		
中期目標	良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の整備充実を図る。	
中期計画	良好な教育研究環境の維持・向上のため、個別施設計画（インフラ長寿命化計画）に基づき、定期的に改修を重ね、大学施設の機能・性能を確保するとともに、新たな施設、設備、教育研究用備品の整備・充実を計画的に進める。	
R7 (2025) 年度の 主な実績 点検評価	・第1期(2021年～2025年)個別施設計画(インフラ長寿命化計画)に基づき、経年劣化による雨漏りがみられる末広キャンパスA棟玄関庇漏水修繕、学生寮では貯水槽ポンプモーター取替えによる、漏水修繕を実施。また、2027年末の蛍光灯の製造中止を見据え、末広キャンパスA棟・B棟のLED化を実施し、残る栗津キャンパス及び学生寮についてはR8年度に実施する。 ・北電産業小松ビル合同会社とウレシヤス小松4階の定期建物賃貸借契約を締結し、10月27日に中央第2キャンパスを開設した。開設を記念し、学長による記念講演と新キャンパス見学会を実施した。また、中央第2キャンパスの教育・研究環境の充実のため、必要な什器の選定・導入を行い、各所の整備を進めた。 ・中央第2キャンパスに中田 勝彦（三代 仲田 錦玉）様より九谷焼作品2点、西房 浩二 様より洋画作品1点の寄贈を受けた。 ・中央第2キャンパスに芸術に親しむ機会の創出及び学内環境の充実を図るため、山本学長の週替わりアートコーナーを設置した。 ・学校法人金沢医科大学と、2月12日付けで大学施設・設備の利用に関する協定を締結した。 ・保健医療学部教員及び大学院生の研究環境の充実を図るため、令和9年4月供用開始を目指し、C棟前駐車場に鉄骨造2F(延床面積382.42㎡)の「研究実験棟 SOUTH」を計画し、基本設計・実施設計及び地質調査を実施する。  白粒深鉢「宇宙」 (二代 仲田 錦玉)  白金盛白粒合子「清麗」 (三代 仲田 錦玉)  薔薇のカーディガン (西房 浩二)  山本学長 週替わりアートコーナー (中央第2キャンパス学生ホール)	

◎評価指標

35. 個別施設計画（インフラ長寿命化計画）に基づく施設改修の整備率：100%（第2期中期計画期間中）

部局：財務課

R6(2024)年度実績	○栗津キャンパス－食堂の屋上防水シートの全面張替工事、図書館棟屋根漏水修繕、学生ホール天窓枠接合箇所パッキン張替工事を実施。 ○末広キャンパス－A棟バルコニー漏水修繕(配水部及び壁面部)を実施。	—
R7(2025)年度実績	第1期（2021年～2025年）インフラ長寿命化計画では、順次、劣化している設備について改修を行うこととなっている。 ○栗津キャンパス－学生寮貯水槽ポンプモーター取替えによる、経年劣化による漏水修繕を実施。 ○末広キャンパス－A棟玄関庇漏水修繕。A棟・B棟の全ての照明器具のLED化を実施。	—
R8(2026)年度計画	第2期インフラ長寿命化計画では、特に電気設備について重点的に改修を行うこととなっており、計画1年目の令和8年度は、栗津キャンパス及び学生寮の全ての照明器具のLED化を推進し、電気料の節減にも努める。	—
R6(2024)～R11（2029）年度目標値	第2期（2026年～2030年）個別施設計画（インフラ長寿命化計画）に基づき、施設整備を実施する。	100%

36. 中央キャンパス拡充（小松駅東地区複合ビル内公立小松大学開設）（第2期中期計画期間中）

部局：総務課

R6 年度実績	中央第2キャンパス（2025年秋竣工予定）開設に伴う調整
R7 年度実績	令和7（2025）年10月27日、中央第2キャンパス開設

中央第2キャンパス



学生ホール



オープンスタジオ



共同研究室

Ⅶ-2 安全衛生管理		その他業務運営
Ⅶ その他業務運営に関する目標		
2 安全衛生管理に関する目標を達成するための措置		
中期目標	学生及び教職員の安全を確保し、災害、事故、犯罪、感染症等の被害が軽減されるよう、危機管理体制を整備する。また、教職員の心身の健康保持増進のため、安全衛生管理に関する取り組みを充実する。さらに、個人情報を含む情報セキュリティ対策を強化する。	
中期計画	①防災・防犯のためのマニュアルを必要に応じて見直し、学生及び教職員に内容を周知する。また、学生や職員を対象とした訓練や講習会を実施する等、安全・危機管理に関する取り組みを充実する。 ②災害、犯罪、感染症、海外渡航中の事件・事故等の発生時におけるリスクに対応するため、関係機関との連絡体制の構築等、危機管理体制を整備する。 ③教職員の心身の健康の保持増進のための適切な措置を行い、安全で衛生的な環境づくりに取り組む。 ④個人情報の保護や情報資産の保全のため、運用管理等の情報セキュリティ対策を強化する。	
R7 (2025) 年度の 主な実績 点検評価	〔防災・危機管理〕 ・危機発生時に迅速かつ適切な対応が行えるよう、危機管理体制の整備、マニュアルの見直し・周知、防犯対策の強化及び消防訓練の実施に取り組んだ。 ○危機管理基本マニュアル 4/28 改訂版を学内に通知 10/3 中央第2キャンパス開設に伴い、4キャンパスの危機管理者及び危機管理補助者を改めて選任。改訂版を学内に通知 10/27 所属長宛に危機管理の初動対応について通知 ○中央キャンパス自衛消防訓練 6/25 春の自衛消防訓練 学生・教職員 11/26 秋の自衛消防訓練 職員 ○中央第2キャンパス自衛消防訓練 3/6 自衛消防訓練 教職員 ○末広キャンパス自衛消防訓練 3/19 自衛消防訓練 職員 ○クマ出没注意喚起 4/28～ 注意喚起ポスター掲示、熊よけ鈴の貸出し・留学生3名に貸与 ○除雪対策 1/22, 23, 26, 2/3 の積雪時、キャンパス敷地内及び通学路の除雪作業 ○防犯対策および不審者対策 1/5～ 寮生のため防犯ブザー購入・貸出 2/5 小松警察署生活安全課より第2キャンパスの防犯確認および不審者対応について担当者が説明を受けた。	



消防訓練チラシ



消防訓練

・海外渡航中の安全衛生管理のため、国際交流センター及び保健管理センターにおいて、海外留学健康セミナー及び危機管理セミナーを計4回実施し、延べ180人の学生が参加した。12月には全学教職員を対象に、海外語学研修中の事故を想定した危機管理訓練の実施に向けて、日本アイラック株式会社と綿密な準備を重ねてきたが、悪天候のため開催は中止となった。

・次世代考古学研究センターでは、現地日本大使館、JICA 現地事務所および現地協力機関との密接な連絡体制を維持し、安全・危機管理に関する最新情報の更新を継続。また、万一来臨、調査地周辺の医療施設等に関する情報収集も継続的に実施した。

〔保健管理センター〕【Ⅱ－1－（5）学生支援】再掲

・保健管理センターにおいては、学生定期健康診断、公認心理師（臨床心理士）による学生及び職員相談、予防接種、職員健康診断、特殊健康診断、ストレスチェック、職場復帰支援、安全衛生委員会の運営、救命講習会の開催などを実施し、心身の健康増進と安全で衛生的な環境づくりに取り組んだ。

・学生相談では、前期の新規相談者が増え、のべ相談回数も増加したが、後期はのべ相談回数が減り、1年間の相談回数は昨年度とほぼ同数だった。R7年度から設置されたヒューマンリソースコーディネーション機構や関係部署と連携し、学生及び職員相談の対応は円滑に進めることができた。

R7年度の健康管理及び安全衛生管理に係る主な実績は以下のとおり。

◎健康管理

- ・学生定期健康診断 受診者：1,046人/1,084人（受診率96.5%）
- ・学生相談 回数：延べ191回、相談内容：主に心理的・精神的な悩み、学業や進路・就職、対人関係など
- ・予防接種

B型肝炎予防接種	保健医療学部1年生全員3回接種済み
インフルエンザ予防接種	接種者数：学部生・院生608人/1,077人（56.5%）、教職員104人/129人（80.6%） 全体712人/1,206人（59.0%）
- ・感染者状況把握 72人（学生63人、職員9人）が主にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症に感染
- ・職員健康診断 対象職員128人/129人受診、未受診者（休職中）1人（受診率99.2%）
- ・特殊健康診断 1回目対象職員7人/7人受診（受診率100%）、2回目対象職員6人/6人受診（受診率100%）
- ・ストレスチェック 回答率：120人/123人（97.6%）
- ・職場復帰支援 病休及び休職職員への対応

◎安全衛生管理

- ・安全衛生委員会 12回開催（内3回書面附議）、産業医による職場巡視を6回実施
- ・救命講習会 9月9日に末広キャンパスで開催し、職員19人が参加

〔情報管理〕

- ・新規採用職員へ情報セキュリティ対策についてメールで周知（規程、PC利用、学内ネットワークの接続等）した。

〔個人情報保護に関する取り組み〕

- ・公立大学法人公立小松大学における個人情報の保護に関する規程（令和7年2月1日施行）に基づき、6月12日付けで、全部局長宛てに個人情報保護担当者の選任と個人情報ファイル簿の作成を依頼した。個人情報ファイル簿については、キャリアサポートセンターから1件、保健管理センターから1件、学生課から3件の提出があった。

◎評価指標なし

Ⅶ-3-(1) 法令遵守及び人権の尊重		その他業務運営
Ⅶ その他業務運営に関する目標		
3 法令遵守等に関する目標		
中期目標	大学の全ての構成員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。また、人権を尊重し、構成員がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。	
中期計画	①大学の全ての構成員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。 ②人権を尊重し、構成員がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。 ③ワークライフバランスに配慮し、職員が働きやすい職場環境づくりに努める。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	〈ハラスメント防止啓発〉 ・6月1日にハラスメントの防止等に関する規則の改正をし、ヒューマンリソースコーディネーション機構も連携してハラスメントに対応していく体制となった。 ・志村副学長よりハラスメント防止に関する注意事項を教員へメールにて周知し、ハラスメントに起因する問題が生じないように注意喚起を行った。 (研修会実績) ★ハラスメント防止に関する学生向け研修会 ・日 時：5月14日(水) 16:30～17:30 (質疑応答を含む) ・会 場：中央キャンパス 3階 305・306 講義室 ・内 容：「公立小松大学学生・院生のためのハラスメント防止研修会」 ・講 師：公立小松大学副学長 志村 恵 ・参加者：学生 11 名 ★ハラスメントに関する相談員研修会 ・日 時：6月11日(水) 16:30～17:30 ・会 場：中央キャンパス 2階会議室 ・内 容：相談員の役割、相談への対応、傾聴の手法について ・講 師：副学長 志村 恵、ヒューマンリソースコーディネーション機構副機構長 橋本 みのり ・参加者：相談員 13 名 ★第1回FD・SD研修会「ハラスメント防止研修会」 ・日 時：7月30日(水) 16:30～17:30 (質疑応答を含む) ・会 場：中央キャンパス 3階 305・306 講義室 ・内 容：「ハラスメント防止について」 ・講 師：公立小松大学副学長 志村 恵 ・参加者：教職員 105 名 (対面 78 名、オンライン 27 名) 〈ワークライフバランス推進〉 ・所属長へ職員の勤務状況確認・指導(長時間労働、年休取得日数、勤務日数の集計結果)することを隔月に所属長に依頼した。また6月に夏季休暇及び年休取得促進、11月に所属長から所属職員へ年休取得促進について周知するよう依頼した。 (勤務規律の徹底及び交通ルール遵守) ・「職員の綱紀の保持および勤務規律の徹底」および「交通ルールの遵守及び緊急時における対応」について、2月に学内で周知を行った。	



第1回FD・SD研修会
「ハラスメント防止研修会」

	(人権の尊重) ・性的マイノリティへの配慮の観点から、11月7日に「身障者トイレ」を「みんなのトイレ」(障がい者、お年寄り、妊産婦、LGBTQ)に変更 (末広キャンパス：4ヶ所、栗津キャンパス：1ヶ所、中央キャンパス：2ヶ所) ・「公立小松大学障がい者就労施設等からの物品等の調達方針」により障がい者の就労機会を創出し調達目標10万円を設定した。(社福)こまつ育成会と連携し調達目標の達成に努め、栗津キャンパス花苗植替え作業(春・秋)・パンフレット等の封入作業を依頼し、令和7年度の調達実績は50,887円であった。
--	--

◎評価指標なし



みんなのトイレ
(中央キャンパス)

Ⅶ-3-(2) 内部監査		その他業務運営
Ⅶ その他業務運営に関する目標		
3 法令遵守等に関する目標		
中期目標	業務運営及び会計処理の適法性及び妥当性を公正かつ客観的に検証及び評価するため、計画に基づく内部監査を適正に実施する。	
中期計画	業務運営及び会計処理の適法性及び妥当性を公正かつ客観的に検証及び評価するため、計画に基づく内部監査を毎年度適正に実施する。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	・業務方法書、内部監査規程及び文部科学省のガイドラインに基づき、内部監査を実施し、いずれも適正に事務処理ならびに運用がなされていることを確認した。 【内部監査】 8月28日実施 対象部局：学生課、総務課人事係 【公的研究費内部監査】 ①通常監査—交付金額の多い競争的研究費を各学科から1件抽出して実施。 ・7月28日実施 生産システム科学科 梶原 祐輔 教授 3,400 千円 看護学科 上田 映美 准教授 4,600 千円 臨床工学科 山田 昭博 准教授 2,100 千円 国際文化交流学科 望月 葵 講師 1,200 千円 サステイナブルシステム科学研究科 中村 誠一 教授 22,000 千円 ②リスクアプローチ監査—科学研究費助成事業から執行した非常勤職員の勤務実態及び報酬について実施。 ・8月12日実施 生産システム科学科 粕谷 素洋 教授の研究補助業務を行う非常勤職員2名 臨床工学科 山岡 哲二 教授の研究補助業務を行う非常勤職員1名	

◎評価指標なし

Ⅶ-3-(3) 環境保全の推進		その他業務運営
Ⅶ その他業務運営に関する目標		
3 法令遵守等に関する目標		
中期目標	持続可能な社会の実現に向けて、環境に配慮した教育研究活動や業務運営を行い、省エネルギーやリサイクル等、全学的に環境負荷の軽減及び環境保全に取り組む。	
中期計画	①教育研究活動や業務運営、施設整備にあたり、環境への配慮や省エネルギー対策を推進する。 ②廃棄物の分別を徹底し、ごみの減量化とリサイクルに努める。	
R7(2025) 年度の 主な実績 点検評価	【Ⅳ—4 業務の能率向上】再掲 ・事務の効率化・合理化に向け、全学会議のペーパーレス化をさらに推進するとともに、起案・決裁文書の電子決裁(文書管理)システムを導入し、令和8年1月1日から運用を開始した。これにより、決裁スピードの向上及びペーパーレス化の推進につながった。また、定型委託業務（毎年度）の長期継続契約化を実施し、事務手続きの簡素化を図った。 〈長期継続契約化実績（R6年度～）〉 R6.4.1～R 9.3.31 消防保守点検業務, 空調機保守管理業務, 昇降機保守点検業務 R7.4.1～R10.3.31 清掃業務 R7.4.1～R12.3.31 自家用電気工作物保安管理業務(栗津・末広) R7.4.1～R12.3.31 機械警備業務(栗津・末広), 巡回警備業務(末広) R8.4.1～R11.3.31 マット・モップレンタル業務 ・看護学科で、一部電子教科書を導入した。 ・成績表について、紙媒体での配布を廃止し、卒業写真についても Web ダウンロード方式に変更し、業務の簡略化、ペーパーレス化の推進を図った。 ・共通教育科目「自然資源と環境問題」、国際文化交流学科専門科目「資源エネルギー・環境論」「環境と観光」、生産システム科学科専門科目「環境適合技術論」「資源有効利用学」「地球環境と環境流体」を開講し、学生の環境意識の醸成と持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成に取り組んだ。 ・3キャンパス合同で金属回収2回、パソコン等回収1回を実施し、リユース・リサイクルに努めた。	

◎評価指標

37. 学内諸規則に定める会議のペーパーレス化の推進（第2期中期計画期間中）：50%以上

部局：総務課

年度	業務改善内容	推進率
R6(2024)年度実績	○全学会議のペーパーレス化の実施（教育研究審議会等）	19.2%
R7(2025)年度実績	○全学会議のペーパーレス化の実施（ハラスメント防止委員会、研究倫理審査委員会等）	40.7%
R6(2024)～R11（2029）年度目標値	第2期中期計画期間中	50%以上

（学内会議）

- ・理事会
- ・経営審議会
- ・教育研究審議会 ✓
- ・危機管理委員会
- ・基金運営委員会
- ・全学情報システム運用委員会
- ・自己点検評価・内部質保証推進会議 ✓
- ・評価室ヒアリング ✓
- ・FD・SD推進委員会 ✓
- ・附属図書館運営委員会
- ・ハラスメント防止委員会 ✓
- ・広報室会議 ✓
- ・安全衛生委員会
- ・教育企画委員会
- ・保健管理センター会議
- ・キャリアサポートセンター会議
- ・国際交流センター会議 ✓
- ・地域連携推進センター会議 ✓
- ・研究・社会連携委員会
- ・研究倫理審査委員会 ✓
- ・遺伝子組み換え実験安全委員会
- ・動物実験委員会 ✓
- ・学長選考会議
- ・教授会 ✓
- ・研究科委員会
- ・研究科専攻会議
- ・ヒューマンリソースコーディネーション機構運営会議